

2024（令和6）年度

事業報告書

（2024年4月1日から2025年3月31日まで）

学校法人 宮城学院

目次

I. 学校法人の概要	- 1 -
1. 基本情報.....	- 1 -
2. 法人の事業目的.....	- 1 -
3. 設置する学校・学部・学科等.....	- 1 -
4. 宮城学院の沿革.....	- 1 -
5. 組織.....	- 3 -
6. 学部・学科等の入学定員、学生・生徒・園児在籍者数.....	- 4 -
7. 収容定員充足率.....	- 4 -
8. 役員の概要.....	- 5 -
9. 評議員の概要.....	- 7 -
10. 教職員の概要.....	- 9 -
11. 所在地一覧.....	- 10 -
II. 事業の概要	- 11 -
1. 学院全体に関わる事業.....	- 11 -
(1) キリスト教に基づく教育.....	- 11 -
(2) 社会貢献.....	- 11 -
(3) 本学院の社会的使命を果たすための基盤整備.....	- 11 -
(4) 同窓会との連携.....	- 12 -
(5) その他.....	- 12 -
2. 宮城学院女子大学・大学院に関する事項.....	- 15 -
(1) 大学におけるキリスト教教育諸活動.....	- 15 -
(2) 教育・研究活動の充実.....	- 16 -
(3) 教育内容の充実に向けて.....	- 17 -
(4) 学生支援の充実.....	- 18 -
(5) 学生募集.....	- 20 -
(6) 社会連携 (MG-LAC 活動を含む).....	- 21 -
(7) 国際交流.....	- 22 -
(8) 生涯学習.....	- 22 -
(9) 大学院.....	- 22 -
(10) 大学後援会活動及び保護者等との連携.....	- 23 -
3. 宮城学院中学校高等学校に関する事項.....	- 24 -
(1) 教育計画全般.....	- 24 -
(2) キリスト教教育活動.....	- 24 -
(3) 学習指導.....	- 24 -
(4) 海外研修・国際交流.....	- 26 -
(5) 生徒会指導、生活指導.....	- 26 -
(6) 進路指導.....	- 26 -
(7) 入試広報.....	- 27 -

(8) スクールバス.....	- 27 -
(9) その他.....	- 27 -
4. 宮城学院女子大学附属認定こども園「森のこども園」に関する事項.....	- 28 -
(1) 0～5歳児の保育.....	- 28 -
(2) 食育.....	- 28 -
(3) 子育て支援.....	- 29 -
(4) 児童クラブ「森の家」.....	- 29 -
5. 宮城学院女子大学附属音楽教室に関する事項.....	- 30 -
(1) 教育.....	- 30 -
(2) 行事.....	- 30 -
(3) 広報.....	- 30 -
6. キリスト教センターに関する事項.....	- 31 -
7. 資料室に関する事項.....	- 31 -
(1) 本学院の歴史に関する資料の整理・保管、調査・研究及び情報の提供・公開.....	- 31 -
(2) その他.....	- 32 -
III. 財務の概要	- 33 -
IV. 資料	- 41 -
1. 理事会、評議員会の開催状況.....	- 41 -
(1) 理事会の開催状況.....	- 41 -
(2) 常任理事会の開催状況.....	- 42 -
(3) 評議員会の開催状況.....	- 49 -
2. 法人、大学、中学校高等学校及びこども園の主要な行事等.....	- 49 -
(1) 法人（理事会・評議員会を除く）.....	- 49 -
(2) 大学院・大学.....	- 50 -
(3) 中学校高等学校.....	- 52 -
(4) 大学附属認定こども園「森のこども園」.....	- 53 -
3. 補助金の状況.....	- 55 -
4. 入学志願者、合格者、入学者数.....	- 61 -
5. 寮生数.....	- 61 -
6. 2024年度就職内定状況.....	- 62 -

I. 学校法人の概要

1. 基本情報

法人名 学校法人宮城学院
住所 〒981-8557 宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘九丁目1番1号
電話/FAX番号 022-279-1311/022-279-4667
ホームページURL <https://www.mgu.ac.jp/home/>

2. 法人の事業目的

寄附行為第3条において、「学校法人宮城学院は、福音主義のキリスト教に基づき、教育基本法及び学校教育法に従い、女子及び幼児に学校教育を行うことを目的とする。」と定め、大学院、大学、高等学校、中学校、認定こども園及びその他の教育研究施設を設置し、女子の初等・中等教育及び高等教育を担い、広く社会に有能な人材を育成することを目的としている。

3. 設置する学校・学部・学科等

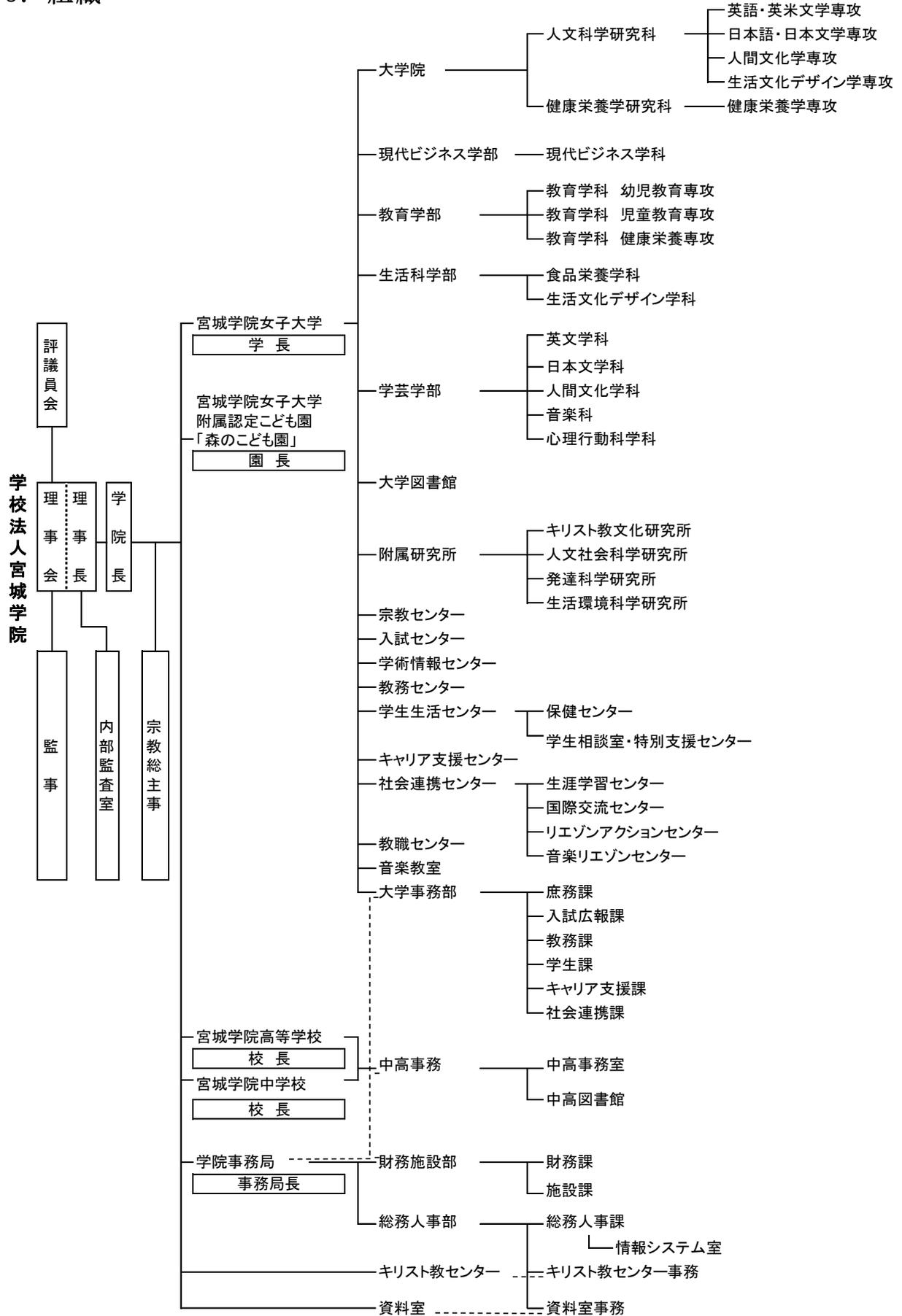
設置する学校	設置年	学部・学科等
宮城学院女子大学	1949年	大学院 人文科学研究科 健康栄養学研究科 現代ビジネス学部 現代ビジネス学科 教育学部 教育学科 生活科学部 食品栄養学科 生活文化デザイン学科 学芸学部 英文学科 日本文学科 人間文化学科 音楽科 心理行動科学科
宮城学院高等学校	1948年	全日制課程 普通科
宮城学院中学校	1947年	
宮城学院女子大学附属認定こども園 「森のこども園」	2016年	

4. 宮城学院の沿革

1886年 押川方義、ウィリアム・E・ホーイが中心となり宮城女学校創立
初代校長にエリザベス・R・プールポー就任
1889年 東三番丁162番地に竣工した新校舎に移転
1900年 1年制聖書専攻科設置
1910年 校旗・校章制定
1911年 高等女学校に準ずる学校となる
1912年 3年制家政専攻科設置
1913年 3年制英文専攻科設置
1914年 理事会組織の発足と寄附行為（the Constitution）の制定
1916年 3年制音楽専攻科設置、2年制聖書専攻科設置

1931年	音楽科に師範科及び研究科を設置
1941年	財団法人宮城女学校設立
1943年	宮城女学校を廃止、宮城高等女学校設置、専攻部を専攻科と改称
1946年	学則改正によりキリスト教主義学校へ復す。専門学校令により宮城学院女子専門学校設置（育児科、国語科、外国（英）語科、音楽科）
1947年	新学制により宮城学院中学校設置
1948年	新学制により宮城学院高等学校設置
1949年	宮城学院女子大学設置（学芸学部英文学科、音楽科）
1950年	宮城学院女子短期大学設置（家政科、国文科）
1951年	学校法人宮城学院設立認可
1955年	宮城学院女子短期大学保育科設置
1956年	宮城学院女子短期大学附属幼稚園設置
1959年	大学学芸学部家政学科を設置
1964年	大学学芸学部日本文学科、短期大学に教養科を設置
1980年	東二番丁から現在地である桜ヶ丘へ総合移転
1986年	創立100周年
1988年	短期大学に国際文化科を設置
1995年	大学学芸学部人間文化学科を設置、大学院人文科学研究科を設置（英語・英米文学専攻、日本語・日本文学専攻）
1999年	大学院人文科学研究科に人間文化学専攻を設置
2000年	大学学芸学部食品栄養学科、生活文化学科、発達臨床学科、国際文化学科を設置
2001年	宮城学院女子短期大学廃止
2005年	大学院人文科学研究科に生活文化デザイン専攻を設置
2006年	創立120周年（礼拝堂増築） 高校コース制導入
2007年	大学学芸学部心理行動科学科、児童教育学科を設置
2008年	大学院健康栄養学研究科健康栄養学専攻を設置
2009年	大学院人文科学研究科生活文化デザイン専攻及び大学学芸学部生活文化学科の名称を大学院人文科学研究科生活文化デザイン学専攻及び大学学芸学部生活文化デザイン学科に変更
2016年	創立130周年 大学現代ビジネス学部現代ビジネス学科、教育学部教育学科、生活科学部食品栄養学科、生活文化デザイン学科設置 大学附属幼稚園廃止 大学附属認定こども園「森のこども園」設置
2019年	大学設置70周年 大学学芸学部児童教育学科廃止
2020年	大学学芸学部発達臨床学科廃止
2021年	大学学芸学部食品栄養学科廃止 大学学芸学部生活文化デザイン学科廃止
2022年	大学学芸学部国際文化学科廃止

5. 組織



6. 学部・学科等の入学定員、学生・生徒・園児在籍者数

(2024年5月1日現在)

				入学 定員	学生・生徒・園児数					収容 定員	定員比
					1年	2年	3年	4年	合計		
大 学 院 課 程	人文科学研究科	英語・英米文学専攻	4	1	1	/	/	2	8	0.25	
		日本語・日本文学専攻	4	0	1	/	/	1	8	0.13	
		人間文化学専攻	4	0	2	/	/	2	8	0.25	
		生活文化デザイン学専攻	4	1	0	/	/	1	8	0.13	
	健康栄養学研究科	健康栄養学専攻	4	1	4	/	/	5	8	0.63	
大学院合計				20	3	8	/	11	40	0.28	
大 学	現代ビジネス学部	現代ビジネス学科	95	85	104	109	94	392	380	1.03	
	教育学部	教育学科幼児教育専攻	90	75	82	103	88	348	360	0.97	
		教育学科児童教育専攻	50	41	42	61	52	196	200	0.98	
		教育学科健康教育専攻	30	50	49	43	36	178	120	1.48	
	生活科学部	食品栄養学科	100	112	106	109	103	430	400	1.08	
		生活文化デザイン学科	60	44	67	57	59	227	240	0.95	
	学芸学部	日本文学科	100	80	109	96	96	381	400	0.95	
		英文学科	70	52	39	61	60	212	280	0.76	
		人間文化学科	70	65	34	54	53	206	280	0.74	
		心理行動科学科	60	96	82	82	70	330	240	1.38	
音楽科		25	16	15	12	19	62	100	0.62		
大学合計				750	716	729	787	730	2962	3000	0.98
大学院・大学合計				770	719	737	787	730	2973	3040	0.97
高等学校				260	103	102	113	/	318	780	0.41
中学校				160	32	39	40	/	111	480	0.23
認定こども園				定員	未満児	3歳	4歳	5歳	118	120	0.98
				120	28	28	30	32			
総合計				/	882	906	970	762	3520	4420	0.79

7. 収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
大学院	0.33	0.25	0.30	0.33	0.28
大学	1.09	1.08	1.08	1.03	0.98
高等学校	0.48	0.47	0.44	0.42	0.41
中学校	0.36	0.34	0.30	0.27	0.23
認定こども園	1.08	1.08	1.07	0.98	0.98

8. 役員の概要

定数 理事 15～17 名、監事 2 名（2024 年 3 月 31 日現在）

理事監事	氏名	選任条項	就任年月日	勤務形態	主な現職等
理事長	佐々木 哲 夫	7-3 理事長 8-1-1 学院長	2022 年 11 月 28 日 2022 年 4 月 1 日	常勤	宮城学院 理事長・学院長
理事	長谷部 弘	8-1-2 学長	2023 年 4 月 1 日	常勤	宮城学院女子大学 学長
理事	平 林 健	8-1-3 校長	2016 年 7 月 19 日	常勤	宮城学院中学校高 等学校校長
理事	大 内 典	8-1-4 副学長	2023 年 4 月 1 日	常勤	宮城学院女子大学 副学長
理事	深 澤 昌 夫	8-1-4 副学長	2023 年 4 月 1 日	常勤	宮城学院女子大学 副学長
理事	本 田 辰 雄	8-1-5 事務局長 細則第 10 条 常務理事	2013 年 4 月 1 日 2022 年 12 月 13 日	常勤	宮城学院 事務局長・常務理事
理事	遠 藤 純 子	8-1-6 教職員評 議員	2022 年 11 月 28 日	常勤	宮城学院中学校高 等学校教頭
理事	色 川 幸 子	8-1-7 同窓会会 長	2023 年 6 月 1 日	非常勤	
理事	瀬 谷 寛	8-1-8 学識経験 者	2022 年 11 月 28 日	非常勤	日本基督教団 東一番丁教会牧師
理事	佐久間 敬 子	8-1-8 学識経験 者	2010 年 11 月 28 日	非常勤	弁護士
理事	大 泉 一 貫	8-1-8 学識経験 者	2013 年 11 月 28 日	非常勤	
理事	間 庭 洋	8-1-8 学識経験 者	2019 年 11 月 28 日	非常勤	仙台商工会議所 参与
理事	藤 沢 智 子	8-1-8 学識経験 者	2020 年 5 月 26 日	非常勤	
理事	出 村 みや子	8-1-8 学識経験 者	2022 年 11 月 28 日	非常勤	
理事	佐 藤 勝 博	8-1-8 学識経験 者	2022 年 11 月 28 日	非常勤	
理事	鈴 木 和 彦	8-1-9 評議員	2023 年 5 月 23 日	非常勤	
理事	中 本 純	8-1-9 評議員	2022 年 11 月 28 日	非常勤	日本基督教団 東六番丁教会牧師
監事	保 坂 和 男	9	2013 年 11 月 28 日	非常勤	
監事	武 田 雅 比 人	9	2010 年 11 月 28 日	非常勤	公認会計士

責任免除・責任限定契約、補償契約・役員賠償責任保険契約について

責任の免除

寄附行為第 22 条において、役員の実任の免除を次のとおり規定しています。

第 22 条 役員が任務を怠ったことによって生じた損害について本法人に対し賠償する責任は、職務を行うことにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、役員が賠償の責任を負う額から私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額を控除して得た額を限度として理事会の議決によって免除することができる。

責任限定契約

寄附行為第 23 条において、役員の実任限定契約を次のとおり規定しています。本学院では本寄附行為に基づき、非業務執行理事及び監事に対しては、責任限定契約を締結しています。

第 23 条 理事（理事長、常務理事、業務を執行したその他の理事又は本法人の職員でないものに限る。）又は監事（以下この条において「非業務執行理事等」という。）が任務を怠ったことによって生じた損害について本法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事等が職務を行うことにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金 50 万円以上であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする旨の契約を非業務執行理事等と締結することができる。

補償契約

本学院では、役員の実任執行の過度な萎縮を防ぐ観点から、役員がその職務執行に関し負う損害賠償責任に係る費用等を学校法人が役員に対して補償する契約、いわゆる「補償契約」を結んでいます。

役員賠償責任保険契約

本学院では、役員の実任執行の過度な萎縮を防ぐ観点から、役員がその職務執行に関し負う損害賠償責任に係る費用等を填補する責任保険契約で学校法人が保険者との間で役員を被保険者として締結するものいわゆる「役員賠償責任保険契約」を結んでいます。

<契約内容>

契約当事者：学校法人宮城学院、東京海上日動火災保険㈱

保険期間：2024 年 4 月 1 日午後 4 時から 2025 年 4 月 1 日午後 4 時まで

被保険者（補償の対象となる者）の範囲：

【個人被保険者】役員（理事、監事）、退任役員

【記名法人】学校法人宮城学院

補償内容：役員としての業務の遂行に起因して、保険期間中に損害賠償がなされたことによって被る損害を、保険期間中の総支払限度額の範囲内で支払う保険。

支払限度額：15 億円。

9. 評議員の概要

定数 31～35 名 (2024 年 3 月 31 日現在)

氏 名	選任条項	就任年月日	主な現職等
佐々木 哲夫	28-1-1 学院長	2022 年 4 月 1 日	(学)宮城学院 理事長・学院長
長谷部 弘	28-1-1 学長	2023 年 4 月 1 日	宮城学院女子大学 学長
平 林 健	28-1-1 校長	2009 年 10 月 6 日	宮城学院中学校高等学校 校長
本田 辰雄	28-1-1 事務局長	2013 年 4 月 1 日	(学)宮城学院 事務局長・常務理事
正木 恭介	28-1-1 教職員	2023 年 7 月 25 日	宮城学院女子大学 教授
大内 ふみ典	28-1-1 教職員	2022 年 11 月 4 日	宮城学院女子大学 副学長
深澤 昌夫	28-1-1 教職員	2022 年 11 月 4 日	宮城学院女子大学 副学長
三友 安紀子	28-1-1 教職員	2022 年 11 月 4 日	宮城学院女子大学 副手
大久保 直樹	28-1-1 教職員	2019 年 11 月 4 日	宮城学院中学校高等学校 宗教主事
丸山 ひとし	28-1-1 教職員	2019 年 11 月 4 日	宮城学院中学校高等学校 教頭
遠藤 純子	28-1-1 教職員	2021 年 5 月 25 日	宮城学院中学校高等学校 教頭
桜井 由美	28-1-1 教職員	2019 年 5 月 28 日	宮城学院女子大学 大学事務部長
渡部 伸太郎	28-1-1 教職員	2019 年 11 月 4 日	(学)宮城学院 総務人事部長
山 口 勝 也	28-1-1 教職員	2022 年 11 月 4 日	(学)宮城学院 財務施設部長
色川 幸子	28-1-2 同窓会	2019 年 11 月 4 日	宮城学院同窓会 会長
岩井 富美枝	28-1-2 同窓会	2019 年 11 月 4 日	稲の花(株) 取締役
内海 祥子	28-1-2 同窓会	2019 年 11 月 4 日	
野川 卓子	28-1-2 同窓会	2019 年 11 月 4 日	
土門 比呂子	28-1-2 同窓会	2022 年 11 月 4 日	
鹿野 みち子	28-1-2 同窓会	2022 年 11 月 4 日	

なが い しょう こ 長 井 祥 子	28-1-2 同窓会	2022年11月4日	
お の しず え 小 野 静 江	28-1-2 同窓会	2022年11月4日	
かく しま すみ お 福 島 純 雄	28-1-3 教職者	2022年11月4日	日本基督教団 福島教会牧師
ひら か まり こ 平 賀 真理子	28-1-3 教職者	2022年11月4日	学宮城学院 宗教主事
なか もと じゅん 中 本 純	28-1-3 教職者	2022年11月4日	日本基督教団 仙台東六番丁教会牧師
すが わら ひろ のり 菅 原 裕 典	28-1-4 学識経験者	2010年11月4日	(株)清月記 代表取締役
さ とう ひろ み 佐 藤 博 美	28-1-4 学識経験者	2013年11月4日	東通インテグレート(株) 代表取締役社長
ねり うかわ まさ し 練生川 雅 志	28-1-4 学識経験者	2021年5月25日	(株)河北新報社 専務取締役
たか はし ひろし 高 橋 博	28-1-4 学識経験者	2019年11月4日	(株)仙台銀行 相談役
くり た とし みつ 栗 田 敏 光	28-1-4 学識経験者	2019年11月4日	(株)アパートナー 副会長
きく ち いさ お 菊 池 勇 夫	28-1-4 学識経験者	2020年5月26日	
さい とう きみ こ 齋 藤 公 子	28-1-4 学識経験者	2023年5月9日	宮城県教育委員
おお いずみ ま り 大 泉 真 理	28-1-4 学識経験者	2022年11月4日	
しろ き えつ こ 白 木 悦 子	28-1-4 学識経験者	2022年11月4日	
すず き かず ひこ 鈴 木 和 彦	28-1-4 学識経験者	2022年11月4日	

10. 教職員の概要

教職員数

(2024年5月1日現在)

区分		教育職員	教務職員※ ¹⁰	事務職員	合計
法人	本務		0	10 ※ ¹	10
	兼務			1	1
大学	本務	110 ※ ²	23 ※ ³	43 ※ ⁴	176
	兼務	321	12	8	341
高等学校	本務	30 ※ ⁵		2	32
	兼務	11		3	14
中学校	本務	17 ※ ⁶	1 ※ ⁷	2	20
	兼務	5		0	5
認定こども園	本務	20 ※ ⁸		1 ※ ⁹	21
	兼務	4		5 ※ ¹¹	9
小計	本務	173	24	58	255
	兼務	345	12	17	374
合計		518	36	75	629

※1 事務嘱託職員 1名を含む。

※2 特任教員・特命教員 32名を含む。

※3 教務嘱託職員、コーディネーター 計 12名を含む。

※4 専門職嘱託職員、事務嘱託職員 7名を含む。

※5 養護教諭（専任）1名及び契約教員 5名を含む。

※6 契約教員 8名を含む。

※7 教務嘱託職員 1名。

※8 嘱託保育教諭 12名を含む。

※9 管理栄養士 1名。

※10 教務職員とは大学は副手・助手、中学校高等学校では実習助手及び教務嘱託職員を指す。

※11 調理員 3名及びシルバーパート 1名を含む。

教職員の平均年齢

区分	教育職員	教務職員	事務職員	全体
本務	49.97 歳	40.08 歳	43.95 歳	47.55 歳
兼務	53.76 歳	41.67 歳	44.18 歳	52.93 歳
合計	52.23 歳	40.45 歳	45.61 歳	50.70 歳

11. 所在地一覧

学校法人宮城学院	仙台市青葉区桜ヶ丘九丁目 1-1
宮城学院女子大学	同 上
宮城学院高等学校	同 上
宮城学院中学校	同 上
宮城学院女子大学附属認定こども園「森のこども園」	同 上



II. 事業の概要

1. 学院全体に関わる事業

(1) キリスト教に基づく教育

キリスト教教育をこども園、中学校、高等学校、大学、大学院までの教育の根本に据えて、全学院的にその充実に取り組みました。本学院の教育の礎である礼拝は、大学においては週 3 回、中高においては毎朝、こども園においては月 1 回守られました。学生生徒については、キリスト教学の講義、聖書科の授業はもとより、様々なキリスト教活動として、キリスト教教育週間時の特別プログラム、YWCA、大学聖歌隊、大学・中学校高等学校ハンドベルクワイア、ハートフルボランティアなどの活動を展開しました。また、教職員を対象とした創立記念講演会、キリスト教講座等を開催しました。その他、「第 3 回クリスマスを祝う音楽会」を開催し、福音主義キリスト教に基づく宮城学院の教育の豊かさを社会に向けて発信しました。

(2) 社会貢献

ア 福音主義キリスト教に基づく活動の展開

宗教総主事、大学キリスト教学担当教員 2 名による「仏教とキリスト教」、「キリスト教と福祉」、「聖書から考える平和」などのキリスト教をテーマとしたキリスト教講座を年 5 回行いました。

イ 地域社会の課題の解決

大学において、イオン環境財団が主催する石巻の被災地支援としての植樹活動に学生ボランティアが参加したほか、せんだい ActiveWorkers ヘルスケアチャレンジ (NTT 東日本共同) への参画、宮城県味噌醤油工業組合との連携協定締結など、地域の復興と被災地支援につながる活動の取組を積極的に行いました。

(3) 本学院の社会的使命を果たすための基盤整備

ア キリスト教的価値観の共有

毎月の全学院教職員礼拝、クリスマス礼拝や東日本大震災記念礼拝などの特別礼拝に加え、9 月 18 日には創立記念礼拝のほか、キリスト教教育を体現し社会で活躍する本学卒業生 佐藤博美評議員を講師とし「私と宮城学院」と題した記念講演を行い、キリスト教的価値観の共有を図りました。また、キリスト教学校教育同盟主催の中学校高等学校中堅教員及び新任教員対象研修会並びに新任事務職員対象研修会に参加しました。

イ 人事

本学院の競争力を上げるために本学院の理念の浸透を図り、教職員の果たすべき役割を理解し、日々の業務をとおして問題改善につなげていけるよう、各種研修会、創立記念講演会などを開催しました。また、教職員の負担軽減につながるよう業務効率化に向けたシステム導入などについて研究を行いました。

ウ 広報

こども園、中学校、高等学校、大学において、それぞれの取組を適時適切に伝えるため、ホームページや SNS を活用して広報を展開したほか、宮城学院広報 ～Glory to God～を年 2 回発行し、約 4 万人の同窓生に発送しました。

エ 教育研究を支える基盤の計画的整備

施設修繕準備調査の結果から、優先度の高いものについて順次施設修繕に着手しました。2024 年度は、防水改修及び外壁改修工事 (音楽館、学生センター、大学図書館)、内壁タイル脱落対策工事 (大学講堂)、講義館耐震工事、経年劣化による設備等の更新工事のほか、旧幼稚園跡地駐車場整備工事を実施しました。

(ア) 施設設備の整備事業	
・ 大学講堂・学生センター内壁タイル脱落対策工事及び監理	157,765,960 円
・ 音楽館屋上防水改修及び外壁改修工事及び監理 (1 年目)	21,342,200 円
・ 学生センター屋上防水改修及び外壁改修工事及び監理 (1 年目)	45,199,110 円
・ 大学図書館屋上防水改修及び外壁改修工事及び監理 (2 年目)	119,958,300 円
・ 駐車場整備工事	95,370,000 円
・ その他の事業	38,421,630 円
合 計	478,057,200 円
(イ) 施設設備の整備事業 (補助金事業)	
・ 講義館耐震工事 (第 2 期) 及び監理	131,094,513 円
合 計	131,094,513 円
(ウ) 臨時的事業計画	
・ ガスクロマトグラフ質量分析計更新	18,150,000 円
・ その他の事業	11,051,040 円
合 計	29,201,040 円
(エ) 臨時的事業計画 (補助金事業)	
・ 大学 GAKUEN/UNIPA 及び証明書自動発行機システム更新 (第 2 期)	35,830,300 円
合 計	35,830,300 円

オ 財政基盤の強化

(ア) 中高財政の健全化

中高新入生確保目標数を達成することができず、生徒総数の減少に歯止めがかからない状況にあります。中高赤字の改善は、本学院の財政にとって重要な課題の一つであることから、引き続き、中高財政の健全化を目指し、宮城学院中学校高等学校の伝統と魅力について生徒募集につながるような確かな広報を展開し、生徒確保に努めることが喫緊の課題となります。

(イ) 寄付金の獲得

オリーブリーフ募金として、多彩な寄付メニュー (①学生・生徒の奨学基金、②教育・研究振興支援、③施設・設備充実支援、④学生・生徒課外活動支援等) を用意して募金事業を展開しました。本学院の役員、教職員、同窓生、保護者など、多くの皆様のご賛同を得て、2024 年度の募金総額は 10,459,408 円となりました。

(ウ) 資産運用の推進

2024 年度資金運用計画において、目標利回りを 1.0% に設定して資金運用を行ったところ、利回りは 1.07% となりました。2024 年度は、年度当初に日銀総裁の交代、年度末にはマイナス金利政策解除が行われ、今後金利が上昇していくことが見込まれる中、国債の購入をしづらい環境となり、償還債券権の再投資先を得ることができませんでした。

(4) 同窓会との連携

同窓会が主催する 5 月開催の第 42 回ホームカミングデーSpring、9 月開催の第 42 回ホームカミングデーAutumn の他、高等学校コース会、音楽コース会に参加しました。その他、同窓会と共に墓前礼拝を守るなど、本学院の貴重な理解者であり支援者である同窓会との連携に努めました。

(5) その他

ア 危機管理体制の充実

自然災害、感染症、その他有事を想定した危機管理体制の充実を図り、危機管理マニュアル及び無線マニュアルの改正を行いました。また、2014 年度から実施してきた全学生・生徒・園

児、全教職員参加による「全学院総合防災訓練」を引き続き実施し、通常の訓練のほか、災害時における最新の通報システムに関する防災講話、学生自主活動団体によるアルファ米調理体験及びサバ飯（サバイバル飯）調理試食体験を実施しました。

イ 奨学金の充実

2024年度奨学金等の事業実施状況は以下のとおりです。

○宮城学院女子大学授業料減免（高等教育の修学支援新制度）	
大学 396名	計 216,779,300円
○宮城学院高等学校入学金減免	
高校 3名	計 125,000円
○宮城学院学業特待奨学金（プールボー奨学金）（給付）	
大学 4名 高校 12名 中学 5名	計 8,909,600円
○宮城学院奨学会奨学金（給付及び事前予約型給付）	
大学 2名	計 900,000円
○宮城学院女子大学奨学金（給付）	
大学 11名	計 2,800,000円
○宮城学院同窓会奨学金（給付）	
大学 2名 高校 2名 中学 0名	計 1,100,000円
○宮城学院女子大学博英賞奨学金（給付）	
大学 11名	計 550,000円

ウ 管理運営体制の強化

（ア）法人の経営・運営体制等の改善

私立学校法改正に伴い寄附行為改正を行いました。幅広い関係者の意見の反映、逸脱した業務執行の防止を図るため、理事会及び評議員会の職務及び運営等に関する諸規程の制定並びに改正を行いました。また、これらに加えて内部統制システム整備の基本方針の決定を行いました。

（イ）監査体制の強化

内部監査では、監査項目として業務監査並びに会計監査を設け、業務監査では共通項目、部署固有項目を設定し、学院内規程を含めたコンプライアンスへの取組の適切性と業務運営の合理性及び効率性を中心に検証を行いました。監事監査は、上半期・下半期の現金預金有価証券の監査、予算案・決算案等の監査を実施するとともに、教学監査として「少子化時代を支える新たな私立大学の経営改革支援」に関する大学部門の対応について確認監査を行うとともに、2023年度及び2024年度の公的研究費不正防止履行状況について確認しました。公認会計士監査は年7回（延べ11日）、定期監査、現金実査確認の監査、決算監査を行い、常任理事会構成員と監事との合同懇談会を行うなど、監査充実に向けて取り組みました。

（ウ）職員の人材育成

職員の職務遂行能力及び資質向上を目指し、新入職員対象に入職時研修等の新任職員研修、管理職対象に考課者研修等を実施するなど、階層別並びに目的別に研修を行いました。あわせて、各職員のキャリア及びスキルに応じた知識の習得やレベルの向上を目指した職員の人材育成に努めました。また、事務職員全体研修のテーマを『職員のレジリエンスを高める』として実施し、第一部の長谷部弘学長による「宮城学院女子大学 現状と課題」と題する講演、第二部の宮城学院女子大学今野孝一教授による「東日本大震災の教訓を踏まえた防災について」と題する講演をとおして、時代の変化に柔軟に対応し様々な困難に直面しても立ち直ることができる力を身に付け、絶えず改善に取り組む続ける本学院職員としての姿勢について

学びました。

エ 旧幼稚園跡地の駐車場整備について

桜ヶ丘キャンパスは恒常的に駐車スペースが不足しており、駐車スペースの確保が喫緊の課題となっていることから、旧幼稚園跡地を駐車場とする整備を行いました。これにより、新たに 96 台の駐車スペースが確保され、2024 年 12 月から供用が開始されました。

オ 上谷刈校地の獲得について

将来の教育活動の展開に柔軟に対応できるよう、近隣地である長命ヶ丘東交差点南東角に上谷刈校地を獲得しました。本校地については、学生駐車場及びグラウンドとして利用できるよう、2026 年 4 月供用開始を目指し整備を行います。

カ 学術情報館建設計画の取り下げについて

学術情報館建設計画は、創立 130 周年記念事業の一つとして実現に向けた検討を鋭意進めてきましたが、近年の急激な建築費高騰等により予算内で新館を建設することは困難と判断し、大学からの計画の取り下げを承認しました。大学は、キャンパス整備計画を立案し、教育内容・学習環境の整備、アメニティ向上、情報基盤の整備に向けた環境整備を行います。

2. 宮城学院女子大学・大学院に関する事項

教職員が礼拝に参加しやすい環境整備の一環として、今年度は日曜（主日）に開催するオープンキャンパスや小学生のためのサマーカレッジ等のイベントにおいて、最初に礼拝を実施する体制を整えました。MGU スタンドアートをコアとする一般教育の充実については、特にリベラルアーツ関連科目の中で、教育学部向けのデータサイエンス関連授業を必修化することによって、リベラルアーツのスタンダード化を進めることができました。

ジェンダー教育研究センターは 2024 年度を開設準備期間として、開設準備委員会を中心に組織体制の検討を行い、規程を整備しました。また、プレ企画として一般市民向け公開講座やシンポジウム等を開催し、内外に宮城学院の存在感をアピールしました。同センターは今後、本格的な活動が期待されます。

大学の組織改革は、2026 年度の学芸学部英文学科の英語文化コミュニケーション学科への改組（届出設置）が進行中です。また、現代ビジネス学部に関光ビジネス学科（仮称）を増設する計画は、文部科学省への事前相談の結果、届出設置から認可申請に切り替え、2027 年度の開設に向けて準備作業を進めています。その他、教育学部教育学科と生活科学部生活文化デザイン学科は、大がかりな学部・学科の再編を視野に検討を進めているところです。

こうした大学改革や組織再編、新設等の取組に対する評価として、文部科学省「令和 6 年度少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援」（メニュー1：少子化時代をキラリと光る教育力で乗り越える、私立大学等戦略的経営改革支援）に選定されました。宮城県では本学が唯一の選定校となりました。また、文部科学省「令和 6 年度私立大学等改革総合支援事業」（タイプ 3：地域連携型）にも採択されました。

教員人事については、先年導入した教員ポイント制とそれに基づく 5 か年計画により、採用作業自体は適切に行われましたが、採用予定者から採用辞退があり、必要な人材を確保できない事例もありました。

今年度新たに導入された基幹教員制度については、一般教育部所属教員や二号特任教員の業務内容や待遇に関する検討や非常勤講師の基幹教員化など、制度的な環境整備を行いました。

学内業務の整理としては、各部委員会の下部組織である小委員会を廃止し、各部委員会の任務に再編し、合理化を図りました。また、全学的なカリキュラムの整理・再編（スリム化）は、2026 年度改訂を目標に、現在各学科で作業が進んでいます。

学修支援については、教務部委員会を中心に「よろず学修相談室」制度を整えましたが、学生への周知とアピールは必ずしも十分とはいえません。まずは学内広報、学生への周知が課題であると認識しています。

情報教育については、データサイエンス基礎教育に対する全学的な対応が整い、文部科学省の数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度においてリテラシーレベルの認定を受けました。さらに、情報教育環境やラーニング・コモンズの整備等のキャンパス整備事業は、学術情報館建設計画の取り下げと第2号基本金の取り崩しによって、2025年度以降3ヶ年計画で実施する目途が立ちました。

なお、今年度は大変遺憾なことに、本学教員によるセクシュアルハラスメント・わいせつ事案が発生しました。大学は再発防止策の要として「教育環境と人権を守るためのガイドライン」等の見直しを行い、綱紀粛正に努めました。

（1）大学におけるキリスト教教育諸活動

建学の精神の実質化を目指し、キリスト教主義学校の社会的責任を果たすため、以下の活動を展開しました。

ア 教育活動全般

「キリスト教学」（1年次必修）、「キリスト教と現代社会」（3年次必修）、「キリスト教教育論」（教育学部 1年次以降必修）においては、聖書の要点を伝え、自己受容と共生社会実

現の重要性を強調する講義を提供しました。SDGs や平和学、生命倫理等、様々な取組の実例を学生に紹介しています。

イ キリスト教教育活動

礼拝を週 3 回行い（前期 38 回、後期 34 回）、出席者数は 1 回につき平均 71 名でした。

今年度のキリスト教教育特別集会は、大学講堂が工事中であるため講演動画のオンデマンド配信となりました。動画では、熊坂聡教授に「NPO 法人の活動から見えているもの～障がい者福祉の落とし穴～」と題して障がい者支援の課題について、金丸真牧師に「被災地支援の経験から～あなたの創造主を心に留めよ～」と題して震災被災者支援の現場での体験を語っていただきました。1 年生は全員動画を見て感想レポートを書きました。

学生に礼拝堂に親しんでもらうため、間瀬幸江教授によるステンドグラス・ワークショップを 5 月 23 日に開催し、約 30 名が参加しました。

12 月 17 日のクリスマス礼拝（100 名出席）では、石巻山城町教会の関川祐一郎牧師に「世を照らす真の光」と題してクリスマスの喜びについて説教していただきました。大学ハンドベルクワイア 6 名による前奏、音楽科研究生 2 名による賛美演奏も行いました。

3 月 17 日の卒業・修了礼拝（95 名出席）では、元東京神学大学教授で日本旧約学会会長でもある小友聡氏に、「生きよと呼びかける聖書の言葉」と題して説教をしていただきました。音楽科学生による賛美演奏もありました。

さくら寮では、入寮式に加えて 6 月 24 日と 9 月 27 日の夕拝、12 月 14 日のクリスマス礼拝で説教奉仕を行いました。

音楽科オルガン・ピアノ専攻 4 年生を対象とする奏楽者ガイダンスを、4 月に開催しました。礼拝と奏楽の意味を説明し理解と協力を求めました。

法人主催のキリスト教講座には宗教センターも積極的に協力し、前期 2 回、後期 3 回の計 5 回の講座を行いました。また、法人所属のサークルである YWCA、ハンドベルクワイア、聖歌隊に協力し、YWCA のフィールドスタディ、ハンドベルクワイアの演奏会・学外イベント・教会礼拝での演奏、聖歌隊の定期演奏会や福祉施設での訪問演奏、YWCA/ハンドベルクワイアの能登被災地訪問等の活動を支援しました。

広報紙「MGU チャペルレター」の配信を継続し、月 1 回発行しています。また、イベント・礼拝における講演・説教を収録した『あかり』第 18 号（4000 部）を 3 月に刊行し、卒業生や新入生に配布しました。

この他、新たな活動として、オープンキャンパスの際の朝のショートメッセージ放送（4 回）、サマーカレッジでのチャペルアワーも担当しました。

（2）教育・研究活動の充実

教育・研究活動の充実を図るために、次の施策を実施しました。まず、図書館環境の充実に関しては、図書予算の適切な配分を通じて、図書館や学科に必要な書籍が購入され、学生や教員に有効に利用されました。特に、過去に課題とされていた図書資産の減少については、消耗品として扱われていた図書の検収方法を見直し、改善に向けた取組を進めました。また、収蔵能力の拡大については、急激な改善は難しいものの、収蔵図書の見直しと除籍図書の処理を通じて、一定の効果を上げることができました。さらに、学生の利用率向上を目指し、図書館の利便性向上や資料の充実にも取り組みました。

ICT 教育環境の整備については、キャンパス整備計画において、学生の居場所としての図書館のブラウジングルームの改修や、夏場の熱中症対策としての 1 階閲覧室の環境改善の計画を策定しました。さらに、BYOD (Bring Your Own Device、以下 BYOD) 化を前提にした ICT 教育環境の整備が進められており、ラーニング・コモンズ教室の整備計画を策定しました。

学内の研究活動を活性化させるために、研究助成費の申請期限を工夫し、4月中の申請期限を1回延長する仕組みを導入しました。この取組により、延長期間中に申請サポートを徹底し、申請率の向上を図りました。また、外部資金への申請やその配分の適切性を検証し、効果的な研究費の活用を進めました。

附属研究所の研究活動について、各研究所の特色を活かした研究の推進を進め、更に研究会や講演会を実施することで、研究成果の発表を通じて研究所の知名度向上に寄与しました。また、教職員や研究所の研究成果の公開機会を増やすため、研究費申請の要件として、Researchmapでの情報公開を義務化しました。この施策により、多くの教員が毎年情報更新を行い、研究成果の透明性が向上しています。

外部資金のサポート体制については、教職員に対して外部資金に関する情報を提供し、積極的な応募を促進しました。URA (University Research Administrator) のサポートに続き、科研費申請の説明会では、文部科学省から提供された資料を活用し、ポイントを押さえた申請書類の作成方法を説明しました。この取組により、採択件数と採択率が向上しました。

研究倫理と不正行為への対応については、研究インテグリティの啓発活動を行いました。今年度は、科研費の要件として新たに安全保障貿易管理が追加されたため、本学の不正防止体制（コンプライアンス体制）を見直し、その内容をホームページ上で公開しました。この体制強化により、研究倫理の遵守と不正行為の予防に向けた対策を更に強化されました。

(3) 教育内容の充実に向けて

ア 教育の質の向上に向けた取組

(ア) アセスメントプランに基づいて、授業科目レベルの点検・評価を実施しそれに基づいて授業内容の改善を図るとともに、学位プログラムレベルの点検・評価を一部実施してカリキュラムの改善計画を作成しました。今後二年間にわたり、カリキュラムの見直しが図られ、教育内容の改善が実施されていきます。

(イ) アセスメントプランに基づく点検と評価を受けて、カリキュラムの改定作業と連動させて、開講科目数や時間数の適正化に着手しました。

(ウ) アセスメントや授業評価をもとに、授業方法の改善に取り組むとともに、学生による授業評価の高かった教員による授業改善の方法に関するFD (Faculty Development、以下FD) や授業評価アンケート結果の報告などのFDを実施することによって効果的な授業方法の共有を図りました。

イ 学修成果の可視化に向けた取組

(ア) 目標と評価との関連性を明確にし、学生ポータルシステムUNIPA (Universal Passport、以下UNIPA) を活用して学生が自らの学修成果を把握するシステムの構築に向けて作業を行いました。アンケート調査を行うとともに、授業支援システムとしてバージョンアップされたUNIPAの学修ポートフォリオを活用して、学修状況の可視化ができる環境を整えました。

(イ) 筆記試験以外で評価を行う科目について、ルーブリックを含む多様な評価方法の導入を図り、学生に対して周知し、共有を図りました。

ウ 学修支援体制の整備

(ア) ラーニング・コモンズ機能の整備に向けた教室運用に努めました。

(イ) 学修に対する学生からの多様なニーズに対応するため「よろず学修相談室」を開設し、学修についての質問や相談に対応しました。

エ 高大接続事業の推進

(ア) 県内外の高等学校からの依頼に対応して、探究学習への講師派遣と調査・演習の受入れを行うとともに、連携協定校や他の高等学校への出講（出前講座）等を行い、連携の強化を図りました。

(イ) 入学前教育について検討を加え、課題について見直しを図るとともに、入学者の集いの実施内容を改善しました。

オ 副専攻制度の充実

提供中のプログラムについて見直しを図るとともに、新規プログラムの開発を行い、提供プログラムを増やしました。

カ 教育内容の点検・改善の工夫

教育課程の内容と方法について、本学と連携協定を締結している富谷市との協議を通じて評価や提言を受けるとともに、学生との意見交換会によって学生の意見を取り入れ、教育内容の改善に向けた取組を行いました。

(4) 学生支援の充実

ア 学修支援について

(ア) 2023年度より進行中のBYODに対応した環境設定に努めるとともに、これまで情報教室や普通教室として使用されてきた教室の一部をラーニング・ commonsのスペースとしても利用できるよう、教室や施設の運用を検討して環境を整備しました。

(イ) 多様な学修方法の導入や学修機会の拡大のための環境整備を行うとともに、UNIPAを活用した自学自習環境を整備しました。

イ 教職課程支援について

(ア) 教職関連法規令等の改正に基づき課程を整え、その趣旨を反映させて内容の充実を図りました。

(イ) 宮城県教育委員会や仙台市教育委員会、市内各学校と連携して、学校現場と大学とを往還する学修活動を推進しました。学生サポートスタッフ事業（学校ボランティア）や学習支援事業への学生派遣を行い、教育実習とは異なる次元で継続的に教職に対する意識と資質の向上を図りました。

(ウ) 学校現場でのICT活用に対応するため、教室の環境を整え、実践力の向上を図るための条件整備を行いました。

(エ) 教員採用試験に向けての準備を支援するとともに、就業後の教師力を確実なものにするために、各種講座を実施しました。

ウ 学生生活支援について

(ア) 自主活動・課外活動支援

今年度は、学生の自主的な課外活動の活性化を支援するため、学生の意向から生まれた企画ができる限り実現できるよう努めました。5年ぶりに年度当初から制限のない勧誘活動が可能となったことを受け、コロナ禍以前の勧誘方法（ガイダンス期間のビラ配り、昼休みのパフォーマンス、説明会の開催など）をサークル・同好会に紹介し、実施を促しました。これにより、新入生にとってサークル活動の活発さがより印象付けられました。

また、本学ホームページでの活動報告の掲載や、UNIPAを通じた情報発信の充実、サークル紹介イベントの校内放送による告知など、各団体のPRにも注力しました。

さらに、サークル・同好会や新入生を対象にアンケート調査を行い、今後の支援に向けた希望や改善点を把握し、より効果的な支援につなげるための基礎資料を得ました。

(イ) 経済的支援の充実

2024年度には、博英賞（星澤英子奨学金）が創設されるなど、経済的な支援に加え、学業評価も考慮した新しい本学独自の支援策を展開することができました。

日本学生支援機構奨学金については、全学生の半数近くの学生が利用していることに加え、制度の仕組みが複雑化していることもあり、これまで以上に、学生一人一人に対して窓口にて丁寧にサポートを行えるような体制作りを努めました。

また、民間の奨学金を希望する学生も増加傾向にあることから、各種奨学金情報については、ホームページを一部リニューアルし、学生が最新情報を速やかに入手できるような改善を行いました。

(ウ) 学生相談・特別支援の充実

2024年度は、多様な学生に対応するため、学生が学生相談・特別支援センターの存在を知り活用できるよう、リーフレットのデザインを一新し、作成配布しました。また、ホームページへの「心の健康ガイド」等の記事の掲載も積極的に行いました。

さらに、2024年4月に改正障害者差別解消法が施行され、私立大学の合理的配慮提供が義務化されたことに伴い、障害のある学生を中心とした多様なニーズに対応した支援が更に充実するよう努めるとともに、合理的配慮に関する教職員への理解啓発活動や、それをサポートできるような支援室サポーターの育成にも注力しました。また、障害の有無にかかわらず学生が自分らしい進路を見つけられるよう、キャリア支援課や外部の就労支援機関とも連携し、就労移行支援の充実に努めました。

(エ) 学生寮の管理運営及び寮生活のサポート

感染症の拡大防止には引き続き留意しつつも、各種寮行事についてコロナ禍前並みに実施できるように寮生委員のサポートを行い、寮生同士の活発な交流が促進されるよう支援しました。また、設備面において修理や改修等が必要となった場合にはできる限り速やかに対応し、快適な寮生活が維持されるように努めました。

毎年実施している寮生アンケートでは、これらの点について一定の満足を確認できましたが、次年度以降も安全・安心な暮らしが維持できるように引き続き学生たちの声に耳を傾けつつ、必要な対応を行っていきます。なお、防音環境の不備により現在空室となっている学習室（ピアノ室）上階の複数の部屋については、利用時間帯の制限等の案を検討し、次年度も引き続きこのようなソフト面の工夫によって入居できるかを更に調査・検討することとしました。

(オ) 学内設備の整備

急な月経でも、学生たちが安心して学業や課外活動に取り組める環境を整えるため、学内数か所のトイレで生理用品の無償提供を開始しました。提供する生理用品は、更新する災害備蓄品を活用するなど、学内関係部局とも連携することによって、より持続可能性の高い方法で実現することができました。

エ キャリア（就職）支援について

(ア) キャリア教育の充実

多様な生き方、価値観を有しながらも「学生自らが自分の意思で進路を選択できる力」を身に付けられるよう、女性のライフキャリアの視点を大切にしながら、キャリア教育を推進しました。

特に全学生が受講できる「キャリアアップセミナー」では、自分の専門分野を問わず幅広いロールモデルに学ぶことで、生き方・働き方についての視野を広げることを目指して開催し、5月から11月まで全8回、延べ3,338名の学生が受講しました。特に2024年度は「性の多様性と人権委員会」との共同開催を新たに企画したところ、単にLGBTQの方の理解に留まらず、他者に対して偏見を持たず受け入れるという姿勢や、それぞれができることに着目するという考え方に刺激を受けた学生が多く見られました。なお、大学講堂改修のため、開催場所に不安がありましたが、各部署のご協力のおかげで、全ての回を礼拝堂にて開催し、聴講を希望する学生全員が対面で受講することができました。

「OGとの集いカフェ」は後期1回に回数を減らしましたが、参加者が減ることのないよう、内容の充実を図り、またオンラインを併用したことで、4名のOGのお話を28名の学生が聴講

しました。OG に直接質問ができる機会は学生にとって大変貴重であり、参加者の満足度の高い集いとなりました。

このように、各企画への学生参加数が多く、満足度も高かったことから、UNIPA と Teams を活用した情報提供や周知は有用であるため、今後も継続していきます。

(イ) 就職支援を含む多様な進路決定のための支援

2024 年度も「誰一人残さない」を合言葉に掲げ、学生一人ひとりに寄り添った支援を継続しました。就職状況はコロナ禍前に戻りつつあり、学生にとって売り手市場となってきましたが、単に卒業時の就職率 100%を目指すのではなく、学生が自立した人生を探求できるよう、進路選択のために適切な情報を提供することを心がけました。その結果、就職活動におけるトラブルもなく、就職希望者における就職率は 4 月 1 日現在で 97.9%と、多くの学生が納得する選択をして卒業しました。

これらの要因として、学科・専攻とキャリア支援課の連携が密だったこと、学生への情報提供が徹底できたこと、保護者や教職員の理解が得られたことなどが挙げられます。特に、忙しい学生のスケジュールを考慮して、「就活ランチボックス」と名称を変えて昼休みに対面で実施した就職セミナーは新たなチャレンジでしたが、毎回多くの学生が参加し、学生との信頼関係を構築しながら、有用で正確な情報を提供することができました。

(ウ) 留学生の就職支援

留学生に対しては、個別相談を基本として、所属学科・専攻や国際交流センターとの連携を密にしながら、学生主体の進路決定を支援した結果、本人の希望どおり日本での就職内定に至りました。

(エ) OG 支援

今年も卒業式当日に全卒業生にリーフレットを配布し、卒業後も役立つオンデマンド動画の開放や、OG も参加可能なキャリア支援課のイベントがあることを周知しました。さらに、卒業後に必要となるスキルや知識に対応すべく、今年度はジェンダー教育研究センター準備委員会と共同で、4 回のリカレント教育を実施し、のべ 64 名の卒業生の参加を得ました。参加者アンケートから、リカレント教育に対するニーズも把握できたことから、次年度以降も継続して実施していきます。

(オ) キャリア支援に関する情報の積極的発信

キャリア支援では毎年ホームページ情報を充実させてきましたが、今年度はこれを多くの学生が活用できるよう、ガイダンス等での周知を繰り返しました。特に新年度のガイダンス時は、全てのクラスにキャリア支援課職員が直接出向き、キャリア教育について説明しながら、顔の見える支援に努めました。そして、保護者や教職員が、学生の状況を共有できるよう、ホームページの活用はもとより、後援会総会や地区後援会、保護者のための就職支援セミナーなどで、その時々に応じた充実した情報提供に努めました。

(5) 学生募集

ア 志願者確保に向けた対応

(ア) 総合型選抜・学校推薦型選抜での志願者確保

年内入試志向の高まりに対応するため、2024 年度は学校推薦型選抜の推薦枠を通信制高校等にも拡大し、志願者確保に努めました。年内入試（総合型選抜と学校推薦型選抜）による入学者数は合計 488 名で、前年度（521 名）に比べて減少したものの、入学者総数に占める割合は前年度とほぼ同様の水準となりました（73%前後）。高校生の 8%程度が通信制高校に在籍している状況を踏まえ、引き続き通信制高校の在籍学生も念頭においた対応を強化していきます。

一般選抜と大学入学共通テスト利用選抜については厳しい状況が続いています。両選抜方式とも、志願者数は前年度の実績を大きく下回りました。2026年度入試に向けて、入試科目を見直すとともに、一般選抜（A日程）学科特化型の廃止を決定しました。次年度からは、一般選抜（A日程）前期・後期として実施します。今後も選抜方法に関する検討を続けていきます。

（イ）積極的な入試広報の展開

2024年度も前年度に引き続き、年6回のオープンキャンパスを実施しました。2026年度に開設を予定している新学科については、高校3年生対象と2年生以下対象に分けて企画を実施し、適切な情報公開に努めました。年内入試の志願者を増やすためには、現行の実施回数維持と実施内容の更なる充実が必要だと考えます。

また、効果的な入試広報を実現するために、高校訪問の体制、時期、回数、訪問先等について見直しを進めました。

イ 多様な学生の受入れ

2024年度は、編入学試験においても指定校推薦制度を導入しました。それにより、指定校推薦枠を利用した受験生を得ることができました。18歳人口の減少に対応するため、編入学、社会人、留学生等の入試についても、積極的な広報を進め、実施していきます。

また、入学者を確保するために、多様な資質・学習経験・志向を持つ高校生へ広く門戸を開いていますが、出願書類の記載内容を各学科と共有することで、問題が生じないように努めています。入学後の学びが円滑に進められるよう、各部署とのより一層の連携が必要となってくると考えます。

ウ 入試制度の円滑な運営

入学者選抜においてミスが生じないように細心の注意を払いました。試験監督や入試運営業務を担当する教職員には、事前に留意事項を周知するようにし、出題採点委員には、会議や確認作業の場で細部にわたって注意を行いました。2026年度一般選抜において出題科目を大幅に変更することから、作題や運営に関するミスが生じないように、確認体制を更に強化しつつ、業務を進めます。

（6）社会連携（MG-LAC活動を含む）

連携事業を行っている各団体とは、定期的な協議の場を設けることで新たなニーズの発掘と課題を発見し、実践的な活動を展開することに取り組みました。連携協定先である仙台市とは、仙台市地下鉄国際センター駅北地区複合施設の建設準備の時期にあることから、現代ビジネス学部現代ビジネス学科、教育学部教育学科児童教育専攻、学芸学部英文学科から1つずつ計3つのゼミが協力し、「災害文化の創造拠点」を醸成するという視点に立って、それぞれの専門性を活かした意見交換や実地見学を行いました。また、NTT東日本宮城事業部との協働により、仙台市が課題とする働き世代の健康増進事業を実施し、教育学部教育学科健康教育専攻の学生たちにとっては計測及び運動指導など実践的な学びの機会を得、かつ測定データもご提供していただきました。さらに、仙台村田製作所との連携事業においては、前年度も実施した社員食堂メニュー提供や同社従業員の健康増進に貢献する測定会の開催に加えて、社員食堂リニューアルのデザイン案を提案し採用していただくなど、複数のプロジェクトを実施することができました。以前より良い関係を築いてきた宮城県味噌醤油工業協同組合とは、新たに連携協定を締結することができ、地元の食文化の伝承と地場産品としての調味料の普及を図ることを共に目指していくことになりました。

学生の自主活動やボランティア活動をサポートするリエゾン・アクション・センター（MG-LAC）では、日本財団ボランティアセンターと連携しており、2024年1月発災の能登半島地震への災害ボランティア活動を展開することを検討しましたが、被災地までの往復と宿泊先の確保において

十分な安全を確保したうえで学生のボランティア活動を実施することは困難と考え、実施を見送りました。学生に対しては、災害ボランティアに限らず、幅広い分野を対象としたボランティア活動の紹介に努め、学生のボランティア経験の増加に資するよう情報提供と関係機関との連絡を密に行いました。

音楽リエゾンセンターは、主催演奏会（スプリングコンサート）開催のほか、高度な演奏力・指導力をもった認定演奏員を地域の諸活動に紹介する認定演奏員制度で、仙台市内を中心に 18 件の催事に対応しました。コロナ禍で一旦激減した依頼数が回復しつつあります。また、楽友ネットワークは、交流会、会報の発行などを通じて多様なジャンルの音楽愛好家（個人 36 名、団体 10 組）の交流機会を設け、地域の音楽文化振興の一旦を担いました。

（7）国際交流

2024 年度は、派遣留学事業として海外協定校である忠南大学に 1 名（後期 1 名）、ウィニペグ大学に 1 名（後期 1 名）、ハワイ大学に 1 名（後期 1 名）の合計 3 名の学生を派遣しました。留学受入事業として、高雄大学から 1 名（後期から 2025 年度前期までの 1 年間）を受け入れました。また、弘光科技大学（台湾・台中市）と新たに協定を締結し、合計 11 校の協定校を持つに至りました。さらに梨花女子大学（韓国・ソウル市）とオークランド大学（ニュージーランド）の 2 校とも協定を結ぶべく調整を図り、本学の海外協定校の更なる拡充にも取り組みました。

また、本学の魅力ある国際交流事業を広報するための活動として年間で 4 回の留学相談会を開催しました。留学を控える学生に対しては、現地での生活に支障が出ないように複数回にわたる事前研修を国際交流委員と国際交流センター主任が協力して実施しました。

（8）生涯学習

2024 年度は生涯学習講座を通年にわたって開講し、年間で 21 講座、延べ人数で 409 名の方々に受講していただくことができました。

また、一般企業や団体とも連携し、若年層をターゲットとした新しい分野の講座の開発にも取り組むべく、積極的に検討しましたが、本年度中の実現には至りませんでした。次年度の開講講座を計画するにあたっては、新規の生涯学習講座を実施する学内教員を募り、これまでとは異なる講座ラインナップとなるよう工夫しました。

（9）大学院

ア 人文科学研究科

入学者確保について、2023 年度入試から導入した社会人対象の入試制度を広く告知しました。また、オンライン相談を継続し、出願時期に合わせ大学ホームページ上で案内しました。さらに、対面による入試相談会を第 1 回入試前及び第 2 回入試前の計 2 回実施しました。

2024 年 10 月 5 日に第 27 回人文学会研究発表大会を開催し、2 年生 4 名の修論中間発表にあたる研究発表並びに 1 年生 2 名の研究計画報告を行いました。同大会終了後に引き続き人文科学研究科 FD 研修会を実施し、各院生の発表、報告を通じ学習成果を把握し、その認識を研修会における課題検討等に活かせるよう情報交換を行いました。その過程で修士論文の題目変更に関する WG が立ち上がり、題目変更締切り後の題目変更を柔軟に行えるよう制度を整えました。さらに、2025 年 1 月下旬に各専攻でそれぞれ修士論文成果報告会を開催しました。

1 年生 2 名が研究倫理 e ラーニングコースを受講し、修了証明書を提出しました。くわえて、継続的な研究倫理教育の一環として、日本学術振興会発行の研究倫理ハンドブック PDF を 1・2 年生全員に配布し、継続的な学習を奨励しました。

修了予定者を対象に、「学修成果の把握に関するアンケート」（DP 達成度にかかわる調査）、「大学院における学びに関するアンケート」を 2025 年 3 月に実施し、学修成果把握のための材料を得ました。さらに、「大学院における学びに関するアンケート」については、学年間の比較ができるように今年度から 1 年生にも回答をしてもらいました。

2025年2月27日にTA業務報告会を開催し、2024年度のティーチング・アシスタント業務の振り返りを行いました。同報告会終了後に引き続き新規に意見交換会を開催し、2025年度の大学院運営に資する貴重な意見をいただきました。

イ 健康栄養学研究科

本研究科独自のFD活動では、教員・大学院生及び大学院進学を目指す学内外の学部生等を対象に実施し、参加者間の研究教育内容や姿勢を理解する情報共有の機会と質の向上を図りました。入学者確保に向けた広報活動では、学外の学部学生と社会人にはホームページにオンライン・メール相談を掲載し、随時、相談を行い受験生確保につながりました。学内の学部学生には研究科合同による大学院説明会(年2回)やUNIPA配信するなど、随時、受験生確保のための広報活動と相談を行い、受験生確保につながりました。2024年度1回目を実施した2025年度第1回大学院入試で1名、2024年度2回目を実施した2025年度第2回大学院入試で2名が受験し、合計3名の合格者を得ることができました。

「臨床栄養学分野の管理栄養士のための高度専門力育成プログラム(BP)※」では、継続した受講生確保のための広報活動と現職者が受講しやすい環境を整えることができ、受講者1名が課程を修了しました。修了者からは、現職者が受講しやすい環境で大変有益であったという感想が述べられました。2025年度から、専門実践教育訓練講座が教育訓練給付金の専門実践教育訓練として指定されたことから、受講生確保につながるものと期待されます。2025年度は新たに1名が受講することとなり、受講しやすい環境作りを継続しているものと考えています。

修士論文作成では丁寧な研究指導を行い、学内外において研究成果を発表し、生活環境科学研究所研究報告に報告しました。大学院生の本研究科修了時の進路指導及び支援は、キャリア支援課や本研究科所属教員間で連携して継続的に行いました。臨床栄養師の資格取得を目指して取り組んだ1名は、臨床栄養分野で管理栄養士として活躍することとなりました。

※BP=Brush up Program for professional(職業実践力育成プログラム):社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的とし、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的な課程を文部科学大臣が認定して奨励する仕組み

(10) 大学後援会活動及び保護者等との連携

本学後援会の活動に関して、4月4日入学式終了後に、新入学生の保護者の皆様を会員としてお迎えする「大学後援会入会式」を執り行いました。5月25日に、本学の礼拝堂を会場として「大学後援会総会」を開催しました。さらに、青森・秋田・岩手・山形・福島の東北5県を会場にした「地区後援会」を開催しました。また、本学の教育方針や学生への日々の教育活動についてなど、学生が日々過ごしている学内の様子を知っていただくために、会員である保護者の皆様へ「宮城学院女子大学後援会会報」(vol.12)を発行しました。

後援会総会においては、総会開催前に本学院の礼拝堂で「音楽科によるミニコンサート」を開催し、本学オルガニスト・研究生・学生による演奏が行われ、多くの会員の方々に参加していただきました。総会においては、2023年度の事業報告及び2024年度の事業計画などの審議を行い、ご承認を頂きました。その後、学生生活やキャリア支援に関する報告、学長賞受賞者による成果発表を行いました。

さらに、会場を変えて各学科単位でのクラス担任を交えた懇談の場を設けました。その他にキャリア支援課においては、担当職員による就職等に関する個別相談の場を設けました。

3. 宮城学院中学校高等学校に関する事項

(1) 教育計画全般

ア 中学校高等学校では、全教員が建学の精神に立ち返り、スクールモットーである「神を畏れ、隣人を愛する」を具体化して教科教育、学級運営にあたってきました。全教員が信仰の有無にかかわらず本校の教育に携わるために、キリスト教教育を「自己受容」と「自己肯定」、「多様性の尊重」と「他者との共生」、「ミッションの発見」と言語化し実践してきました。また、女子教育についても、「女性に備わった資質、能力を見だし、その特性を豊かに育み、ライフデザインをサポートする」と言語化して実践してきました。

イ 建学の精神をより具体化したスクールポリシーの下、教育を実践しました。広報活動では本校の教育内容を丁寧に説明し、アドミッションポリシーを明示して受験生を募集しました。また、本校の教育活動の特徴である英語教育、音楽教育、国際型探究教育に力を入れたカリキュラムを実践しました。中学校高等学校ともに英語に特化したコースを設け、流暢さと正確さを大切に実践的な英語力育成に努めました。音楽教育においてはキリスト教音楽を中心としたカリキュラムを組み、弦楽器を授業に取り入れるなど特色ある教育を実践しました。また、各教科指導において世界的な視点で問題を発見し、その課題を解決に向けて、生徒が共に考えることができる取組を行いました。生徒会活動、学校行事を通じてリーダーシップとフォローシップを学び、主体性と協働性を育みました。

ウ 全教員が学内外の研究会に参加し研修を継続的に行いました。全体研修では「建学の精神研修会（8月）」「アントレプレナーシップ研修会（12月）」「個別最適な授業教育研修会（2月）」を行いました。また、個人研修では各教員が担任として、教科担当者として等、自由に研修テーマを決め、年間研修計画を立て取り組みました。

エ PTA、地域住民、初等中等教育関係者、有識者による学校関係者評価委員会を設け、外部評価を行いました。生徒保護者からのアンケートを基に改善すべき点を教員会議で共有し改善に努めました。

(2) キリスト教教育活動

キリスト教教育の要である日々の礼拝を大切にしました。講堂礼拝、放送礼拝、HR 礼拝、特別礼拝を実施するとともに、キリスト教教育週間全日行事や創立記念行事を実施し建学の精神に立ち返りつつ自らを見つめ、神を信じる生き方について考える機会とすることができました。今年度のクリスマス礼拝は、例年会場としている大学講堂が工事により使用できなかったため、中高講堂で行いました。客席数の関係から来場者を高校 3 年生の保護者のみとせざるを得ませんでした。例年とは違う会場での礼拝でしたが、讚美とオーケストラを含む全てのプログラムをこれまでどおりの形で礼拝を献げることができました。このことは参加した全ての人たちにとって大きな喜びとなりました。

YWCA の取組として、宮城学院女子大学附属認定こども園森のこども園と児童館等の施設への訪問、街頭募金への参加を通じて、学びの時とすることができました。山形学院を拠点として開催された東北北海道地区カンファレンスに高校生 2 名が参加し、平和をテーマとして各校と学びの共有や交流の時間を持つことができました。文化祭やクリスマスを祝う音楽会において、クラフトコーナーを開設し、売上金を AARJapan（難民を助ける会）や能登半島地震の義援金として寄付しました。

(3) 学習指導

ア 生徒が自ら学ぶ姿勢を大切にして全教科で授業を実践しました。知識と技能の習得はもちろんのこと、思考力、判断力、表現力を育むため、生徒が主体的に授業に関わり、対話により答えを導き出す工夫をしました。探究型授業を実践することにより生徒の深い学びにつながりました。

イ 生徒の学力向上のため、放課後学習支援室（スタディモール）を活用し、生徒が自ら学習に向かう姿勢を持てるよう指導しました。また、担任教員による面談を定期的に行い、学習に積極的に取り組むことができるよう指導しました。

ウ 2024 年度より生徒が所有するデバイスを学用品としても利用する（BYOD：Bring Your Own Device）こととしました。OS が混在することによる混乱も見られましたが、授業支援アプリケーション（Google Classroom）の利用に影響はなく、スムーズに移行することができました。選抜コース、特別進学コースについては、個別学習指導体制（オンライン個別学習システム及び個別基礎基本学習）を取り指導しました。学校内のほぼ全域で Wi-Fi 環境が整っており、どの場所からもネットワークに接続することが可能で、双方向通信技術を活用し、教室に入ることができず保健室で過ごす生徒や、登校できない生徒も自宅で授業に参加することができました。

エ 選抜コースでは春・夏・冬講習、放課後講習のほかに自主学習の時間を確保するなど学習時間を保障してきました。また、総合的な探究の時間の取組を外部コンクールで発表するなど積極的に取り組ませてきました。特別進学コースでは共通テスト対策を早い時期から実施したほか、夏・冬の長期休業中の講習を増やすなどして対策を強化しました。総合進学コースではアクティブ講座（コミュニケーションスキルアップ講座、マナー講座など年間 7 回開講）設け自分らしい生き方を考えるきっかけとしました。また、各コースにおいて面談を重ね、早期に進路目標を立てる指導を行いました。コースごとに生徒の学力向上のための個別指導を行いました。学校推薦型選抜及び総合型選抜による進学実績向上を目指して全教員で小論文指導及び面接対策指導に取り組みました。

オ 英語の授業では中学校、高等学校共に年間 7 回のオンライン英語プログラム及び英語ネイティブ教員によるオールイングリッシュ授業をとおして、4 技能（読む、話す、書く、聞く）を大切にしながら実践的な英語力を身に付ける授業を行いました。さらに、定期的なプレゼンテーションやパフォーマンステスト（本校独自の英語運用能力確認テスト）、ICT 機器を使用して英語による世界各国の情報収集など、実用的な英語運用能力の向上のための授業を行いました。中学校では 3 年間でより体系的なプレゼンテーションの授業が実施できるように、発表回数を増やすなどして、生徒が英語で考え、発表する機会を持ちました。この結果、GTEC において、E-Jr.（英語入試入学生）、平均点 913 点（800 点以上を取得した者が 12 名中 10 名）、Regular クラス（2 教科型入試入学生）平均 635 点（全国平均 569 点）と好成績を挙げることとなりました。また、今年度から特別進学コースの中に英語に特化したカリキュラムを受講することができるグローバル・スカラー選択を設置しました。これによりプレゼンテーション、ディベート、アカデミックライティング等をとおして高度な英語運用能力を習得する授業を実践してきました。

カ 音楽の授業では、キリスト教音楽を中心に授業を実践しました。クリスマス礼拝では各学年のクリスマスキャロル、メサイア「ハレルヤコーラス」の練習に取り組みました。全校生徒が思いを一つにすることができるこの讃美は、本校が大切にしている目には見えない力を養い、豊かな心の教育につながっています。クリスマス礼拝にはハンドベルクワイア、聖歌隊、オーケストラも役割を担っており、クリスマス礼拝は本校の音楽教育の要となります。

そのほか、日本歌曲のみならずイタリア歌曲やドイツ歌曲にも取り組み、音楽の多様性について理解しながら様々な音楽文化にも親しみました。楽典や音楽史も同時に学ぶことにより、音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えました。これにより生徒たちは、作曲者の思いや楽曲に対する意図を感じ取りながら、それにふさわしい音楽表現を意識し、音楽の美しさを味わう学びを得ました。

弦楽の授業では、中学校3年生全員と、高校1年生、2年生の選択生がヴァイオリン、ヴィオラ、チェロの3つの楽器から1つを選択し、1年間学習を継続したことでより確かな演奏技法と豊かな音楽性を身に付けることができました。

キ 宮城学院女子大学との高大連携を進めました。宮城学院女子大学の各学科により提供される講義前期5講座（生活文化デザイン入門、高校生のための心理学入門、謎多き日本近代文学、アメリカ音楽物語、人間文化学入門）、後期2講座（自然科学入門、音楽と地域文化B）に高校生が定期的に参加しました。また、PTA行事に大学の教員を招き、保護者向けに講演をしていただくなどの交流を通じて、宮城学院女子大学の魅力を発信しました。

ク 大学入学共通テストについて、各教科において研究を進めました。また、各コースにおいて模擬試験の結果から生徒の学力を分析しました。その結果を授業に反映するなど生徒の学力向上に努めました。さらに、中学校では「学力推移調査」を実施し、生徒の学力を分析して、有効な指導を行いました。

(4) 海外研修・国際交流

2024年度もオーストラリア、ニュージーランドへのターム留学を実施しました。オーストラリア（7月～9月）は高校生1名が参加し、アデレード市の公立高校でホームステイしながら授業に参加しました。ニュージーランド（1～3月）は中学生2名を含む7名が参加し、4都市7校に分かれて現地の高校の授業に参加しました。参加した生徒は諸活動に積極的に参加し、今後の語学学習に対する意欲を更に高めて帰国しました。また、3月には30年以上交流を続けているカナダのPCS（Pacific Christian School）に中高生15名（中学生8名、高校生7名）が訪れました。10日間の研修でしたが意欲的な学習につながりました。さらに、1年間の短期留学中の生徒の中で、2024年度中に帰国した生徒3名は、それぞれドイツ、オーストリア、カナダにて深い学びと貴重な経験を積んで帰国しました。

(5) 生徒会指導、生活指導

ア 生徒会指導

生徒会活動は生徒の自主性を重んじ、主体性を育成する教育活動の場として位置付けています。多様性を尊重し、他者と協働して学び続けることができる集団作りを行い、毎週行われる委員会活動や多くの行事を通じて、責任と義務を全うするリーダーシップを育ててきました。これらは自らの力で問題に取り組み、解決する知性を育み、思考力、判断力、表現力を養う場として大切にしていることです。2024年度も運動会や文化祭、合唱コンクール、スポーツ大会など全ての生徒会行事で、新型コロナウイルス感染症による制限がなく実施することができたことは、生徒にとって大きな学びとなりました。特に、各行事を通じて協力することの大切さや、一つのことを皆で作る喜びと達成感を得ることができたこと、各学年や他学年との交流を通じて、宮城学院生としての意識を高め合うことができたことは大きな収穫となりました。また、高等学校では生徒会の働きかけにより、コートやスクールバッグのルールの変更を行いました。中学校では生徒会の働きかけにより、補食やスクールソックスの代替品の着用について、ルールを見直し、改正を行いました。これからも、現行のルールを守っていくことを大切に、生徒が主体的に変えてきたルールについて見直しを図りながら、より魅力のある学校生活を歩んでいけるように指導していきます。

イ 生活指導

教員がより短い間隔で生徒の心身の状態を把握できるように、学校生活アンケートを3回実施しました。特に生徒たちの人間関係の悩み、いじめの項目に焦点を置き、アンケート結果から速やかに面談の機会を持ち、生徒が心身共に健やかに充実した学校生活を送れるように、各担任のみならず全教員で対応しました。中学校のアンケート結果については、「学校に来るのが楽しい」「授業がよく分かる」と意識している生徒は9割近くおり、「今の自分が好きだ」

「私にはいろいろな良いところがある」など自己を肯定する意識が高い生徒が8割近くいることは、良い結果でした。また、中高6カ年の女子生徒の成長過程に合わせて、各学年において健康教育講演会を実施しました。さらに、スマートフォン、インターネットを巡るトラブルを避けるため、ネットパトロールを実施するとともに安全に使用するための講習会を行い、生徒自身のスマートフォン利用に関する注意を喚起することに努めました。

(6) 進路指導

コースそれぞれの進路実績を向上させるために、各コース主事が授業担当者と情報共有を行い、生徒一人一人に合った進学指導を行いました。特に、特別進学コースと選抜コースでは、12月に外部講師を招き、生徒それぞれの学力の伸張を確認して、共通テストまでの授業、その先の二次試験の指導につなげました。二次対策では、出願大学ごとに受験対策の個別指導を実施し、受験生の国公立大学二次対策や私立大学受験支援を行いました。また、3年生の受験に向けた小論文指導を昨年度に引き続き全教職員で分担して専門性の高い指導を行い、宮城学院女子大学を中心とした指定校推薦入試や総合型選抜による進学指導を丁寧に行いました。その結果2024年度も総合型、学校推薦型、一般のどの選抜でも高い割合で第一志望に合格しました。

「進路の日」(卒業生による受験体験懇談会及び各業種の職業人によるミニ講座)などの行事をとおして、生徒のモチベーションが高まる進路指導が行える様に改善を重ね、今後も生徒一人一人の進学を応援していきます。

※2024年度卒業生進学状況 卒業生 112名

(宮城学院女子大学 23名、国公立大 12名、県内私立大 33名、その他私立大 24名、短大 3名、専門学校 13名、就職 1名、その他 3名)

(7) 入試広報

入試広報部による、組織的な入試広報活動を展開しました。公式 SNS (Instagram や LINE) に積極的に投稿し、生徒の学校生活の様子を配信しました。特に Instagram の投稿数は約 400 件、2025 年 4 月時点のフォロワー数は、1,400 名を超えました。また、ホームページを活用した情報公開に努め、更新回数を増やしました。

2024 年度オープンキャンパスは中学校 2 回 (7 月、9 月)、高等学校 2 回 (7 月、10 月) 行い、学校紹介や体験授業のほか、部活動体験会を行い本校の魅力を伝えました。また、学校説明会も 7 月、10 月のほか、土曜日には個別相談会を開催して多くの小中学生とその保護者に本校の魅力を伝える機会を設けました。

学外団体主催の学校説明会に参加し、通塾する受験生に対する広報活動を積極的に行いました。また、市内の各中学校を訪問し、宮城学院高等学校への関心と理解を高めるよう努めました。あわせて部活動推薦の対象となる生徒に対し、直接学校説明会を実施した結果、多くの受験生を獲得することができました。中学校の英語入試受験生を増やすために、小学生を対象とした「チャレンジ・イングリッシュ」と新たな取組として「奨学生対象英語暗唱コンテスト」を実施しました。

(8) スクールバス

スクールバスは 3 路線 (北東部方面、古川方面、愛子方面) を運行していますが、経費を見直し 2024 年度から料金改定を行いました。今後は運行経路、運行形態を含めて更に検討していきます。

(9) その他

地域の自治会、公立小・中学校との信頼関係を大切にするとともに、留学生との交流などを推進し、地域から愛される学校として、地域の人々との交流、協力関係を深める努力を続けました。引き続き、新しいブランドイメージにつながるよう努力していきます。

4. 宮城学院女子大学附属認定こども園「森のこども園」に関する事項

(1) 0～5歳児の保育

新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきたため、保護者の方々のご理解・ご協力していただき、多くの行事をコロナ禍以前の保育に戻して実施することができました。また、参観・コイノニア（クラス懇談会）や誕生会は内容の検討見直しを行いました。特に誕生会は、毎月一回の開催から、できるだけお子さんの誕生日に合わせて保護者にいらしていただき、クラスごとでの開催に変更しました。子どもたちと一緒に遊んでもらい、一緒に給食を食べていただくようにしたことで、普段どのような生活・遊びをしているのか、どのような環境でどのような給食を食べているか知っていただくことができました。北園庭の芝の管理と畑での野菜の栽培はこれまでお世話になっていた方々から変更になりましたが、田んぼでの稲作を含め、子どもたちの経験のために継続して行うことができました。

また、これまで以上に大学の附属施設として、大学、中高との交流を行い、中高の弦楽班によるコンサート、修了式では2023年度に引き続き音楽科の卒業生（音楽リエゾンセンター所属）に演奏していただき、式に華を添えていただくことができました。そのほかにも中・高・大からボランティアやワークスタディで来園する学生・生徒も増えました。新たな行事の取組としては、羊の毛刈り、味噌作り、ハープコンサートなど、学外の専門家をお招きし実施することができました。また、4・5歳児のクリスマス祝会での聖誕劇を森のこども園（森のひろば）での開催から小ホールでの開催に変更しました。当日を迎えるまでの移動や準備に課題は感じられましたが、ステージや照明、広いフロアを有効にいかし、これまでとは違った聖誕劇を作りあげ、保護者の方々へクリスマスのメッセージを伝えることができました。

年度内に保育教諭の退職者があったことを含め、2024年度は保育教諭の不足が課題となりました。2025年度に向けて専任保育教諭を増員したことにより、継続的に保育の質の担保、質の向上ができる体制となる見込みです。子ども達の遊び、経験、学びを積み重ねられる連続性のある保育展開できるように人的・物的環境を更に整え、子どもたちや保護者が不安にならないように今後も努めなければなりません。

そのため、教職員一人一人が自己研鑽を積むと同時に、園内研修や会議をとおして本園が目指す保育の共有にも努めること、園庭開放や在園児や地域の方に向けた定期的なイベントも定期的に設けることで、家庭との連携、他園の活動や保育教育に関する情報収集、社会情勢の変化を見据えながらホームページなどによる園（保育）の情報発信など積極的に広報にもつなげることが課題として残りました。

(2) 食育

2024年度は、管理栄養士とシルバーパートが替わり、新体制の中で安全かつ円滑な給食運営を行ってきました。その中で、これまでの森の環境をいかした活動を継続・発展させる食育活動を行ってきました。栽培した野菜やお米は、給食、おやつとして提供、またクッキング等にも使用し、子どもたちが身近な食材に興味を持てるようにしました。この興味を展開していけるような活動をこれからも継続的に行っていきます。また、お米や野菜の生産者の方々との交流も大切にし、感謝の気持ちを持てるようにしてきました。

これまで3歳以上児は一斉にひろばで食事をしていましたが、マナーの周知や準備への参加、個別配慮等が行き届かないことが課題としてありました。このことから、ひろばで友達と食べる楽しさを味わう日と、各保育室で落ち着いて食べる日を作り、食事の時間も目的を持って行うことができるように食事環境を見直してきました。また、2024年度から誕生会時に保護者への給食提供を行いました。保護者からとても好評で、味や作り方などたくさん感想を頂きました。2025年度も継続し、給食についてのアンケートを実施するなど保護者とのコミュニケーションの場、

支援のきっかけとして、食事の時間がより充実したものとなるように、環境の見直し、食育活動等を行っていくことが課題として残りました。

(3) 子育て支援

保育教諭の不足により、子育て支援担当者も保育に当たらなければならず、これまで行ってきた（どんぐりくらぶ・すくすく赤ちゃん・にこにこ Day・赤ちゃん Day・のびのび開放日・遊んで行こうの日・子育て相談・子育て講座・立ち寄りサロン）は開催できませんでした。また、大学の先生による講演（講話）は一回、子育て相談は2人以外、実施がありませんでした。

しかし、育児不安や親同士の学びの場、交流の場としての提供、そのことによって、お子さんがこども園への入園へとつながるように定期的なイベントを開催しなければならないことが課題として残りました。

(4) 児童クラブ「森の家」：小学1年～4年 21人（桜丘・川平・上杉山通・長命ヶ丘・南光台東の5校）

最上級生である4年生を中心に「森の家」での日々の暮らしの決まりや長期休業中の活動内容などを話し合い主体的な活動を行ってきました。特に2024年度は、これまで以上に子どもたちの興味・関心に基づき長期休業中に園外活動を取り入れ、科学館見学や震災遺構荒浜小学校訪問するなど、より充実した体験活動をすることができました。児童にも保護者にもご好評を頂いたので、2025年度も内容を検討し更に充実させて継続していきます。そして、行事を充実させるだけでなく日々の子どもたちの放課後を過ごす時間を充実したものにするための教材研究や環境設定をしていきます。

2025年度からは桜ヶ丘地区の地域貢献のために桜丘小学校に通う小学生の受け入れ強化をするため運営規定の見直しを行いました。

5. 宮城学院女子大学附属音楽教室に関する事項

(1) 教育について

授業は、全般的には対面で行いました。2023年度まで感染防止対策として活用されていたオンラインレッスンも毎週継続受講するための一つの方法として活用しました。

教育コースの、小学生ソルフェージュのグループレッスンは、個人授業も織り交ぜながら、歌や合奏など一年を通じて行いました。個々に応じた指導と、学年や音楽経験の違う生徒と一緒にを行う機会が両方あることで、様々な側面から生徒の音楽学習を支えることができました。

後期には、弦楽器専攻の生徒の合奏授業をカリキュラムの一環として行い、最後にショッピングモールでのクリスマスコンサートでの発表を目標にすることで、アンサンブルの中でお互いに刺激を与えながら一緒に音楽を作り上げる素晴らしさを体験することができました。また、生徒によっては大きくスキルアップする機会となりました。コロナ禍で閉講にしていたアンサンブルの合同練習を経験して、生徒の音楽に対する意識も高めることができました。

テストは、ソルフェージュ前期・後期、ピアノエチュードテストについて、予定どおり実施することができました。開室以来続いているこのテストは、音楽教室の教育活動を特色付ける活動ですが、以前に比べて一人一人が自分のペースで学んでいる昨今、各々の成長に応じた出題や、学習成果の確認をする場として、また半期に1回ずつ教師が教育内容を相互に確認する場としても欠かせない機会となっています。

一般コースは幅広い年齢層からの申込みが増え、指揮コースも定期的に学ぶ方が増えました。くわえて、ワンレッスン受講では、年最大5回を上限に、忙しい大人の方や音楽科卒業生の学習継続の場として大いに活用され、入室へつながったケースもありました。大学のオープンキャンパスからの申込み、早期合格者の入室もあり、大学音楽科へ続く一貫した教育活動ができたことは、意味のある一年でした。

(2) 行事について

ア 発表会

2024年度も、専攻の別なく26名が参加し行うことができました。ピアノ専攻の生徒はソロでの演奏、声楽・弦楽器専攻の生徒はピアノ伴奏付きの演奏に取り組み、教師の伴奏に支えられての演奏は、貴重な経験になりました。くわえて、普段は聴けない仲間の演奏を聴くことで、自分の演奏を相対化して捉えることができる良い機会となり、保護者の方々にもお子様の成長を確認していただける大事な場となりました。

また、若手教師にとって発表会は指導内容や成果などを確認する大きな学びの機会ではありますが、それだけではなく、指導年数に関係なく多くの教師が積極的に運営に協力し盛会となりました。

イ クリスマスコンサート

ショッピングモールタピオ（仙台市泉区）でのクリスマスコンサートは、大学音楽科の協力を得て多彩な内容で行うことができました。また、コロナ禍以降中止していた生徒による弦楽アンサンブルの演奏を復活することができ、子どもたちの愛らしくかつフレッシュな演奏を披露することができました。リハーサル時から満席状態という嬉しい状況でした。

(3) 広報について

大学のオープンキャンパスでの広報は音楽科の協力を得て、2024年度も入室者がありました。また、早期合格者として入学準備のために入室する方もあり、大学進学につながる広報は喜ばしいことでした。

情報誌への折込、市内小中高、東北六県などへの案内送付を継続していることで、幅広い年齢層への広報にもつながりました。

お問い合わせの方へ、まず体験レッスンやワンレッスン受講を勧めることも、入室への足掛かりとなりました。

6. キリスト教センターに関する事項

キリスト教センターでは、以下のとおり事業を実施しました。

- (1) 全学院の年度聖句「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」(マタイによる福音書 7 章 12 節) の学内掲示及び刊行物への掲載を行いました。
- (2) 全学院教職員礼拝(原則毎月第 3 水曜日 16:30~17:00) の定期礼拝(4/24、5/22、6/19、7/10、10/16、11/6、2/26)のほか、特別礼拝として、創立記念礼拝(9/18)、新年礼拝(1/6)、東日本大震災追悼記念礼拝(3/11)を行いました。
- (3) クリスマス事業としてクリスマス・チャペルコンサート(12/7)、公開クリスマス礼拝(12/23)を行いました。そのほか、クリスマス・キャンパス装飾(11/6~1/5)、クリスマス・イルミネーション点灯式(11/18)、宮城学院クリスマスカードの製作、大学宗教センターと併せてクリスマス献金(11/20~12/23)を実施しました。
- (4) キリスト教講座は 5 回(5/14、7/26、10/18、12/13、2/25)開催しました。
- (5) ハートフルボランティア・サポート事業として、団体の募集、審査を行い、大学 4 グループ、中高 3 グループに助成金を交付し、ボランティア活動を支援しました。また、活動報告会は開催せず、報告書を刊行しました。
- (6) 学院内外の担当者が一堂に会する礼拝説教者奏楽者懇談会(2/13)を開催しました。
- (7) 刊行物として、宮城学院教職員礼拝説教集『GLORY TO GOD』(89号、90号、91号)、『礼拝ガイド 2025』、『ハートフルボランティア報告書 2024』を作成し、教職員や関係機関に寄贈・送付しました。
- (8) 大学 YWCA は、公開クリスマス礼拝及び大学クリスマス礼拝でのキャンドルサービス・献金奉仕、自主講座を実施しました。
- (9) 大学ハンドベルクワイアは、日本ハンドベル連盟東北フェスティバル(7/14)に参加しました。ハンドベルクワイアコンサート(10/13)を開催し、公開クリスマス及び大学クリスマス礼拝など学内外にて演奏をしました。
- (10) 大学聖歌隊は、第 5 回定期演奏会(10/12)、ミニコンサート(12/7)を開催しました。公開クリスマスではキャンドルサービスや賛美演奏の奉仕をしました。

7. 資料室に関する事項

- (1) 本学院の歴史に関する資料の整理・保管、調査・研究及び情報の提供・公開について

ア 資料の整理・保管

- ・「宮城学院 目で見る 100 年」をデータ化しました。
- ・貴重資料(A001~A014)の目録作成を行いました。

イ 資料の調査・研究

- ・学籍簿(昭和 16 年度~19 年度宮城女学校入学生 416 名)のデータ(入学年月日・卒業年月日・入学前の学歴・親の職業・卒業後の状況)を一覧にして資料室年報に掲載しました。
- ・東京出張

2024 年 5 月 31 日(金) フェリス女学院歴史資料館、横浜開港資料館、横浜開港記念館訪問・視察

6月 1日(土) 昭和館訪問

・研修会参加

2024年11月21日(木)～22日(金)

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会全国大会及び研修会
於：トークネットホール仙台

ウ 情報の提供・公開

・レファレンス 7件

・資料閲覧、調査申込み(学外) 2件

①2024年5月23日(木) 小嶋 翔氏 吉野作造記念館主任研究員

内容：『萩の下露』資料撮影

②2024年9月11日(水) 師岡淳也教授 立教大学異文化コミュニケーション学部

菅家知洋准教授 東海大学 国際教育センター

内容：文学会に関する資料(『萩の下露』『橄欖』)撮影

(2) その他

・創立記念行事で中学2年生に「宮城学院の歴史」について講演を行いました。

2024年9月6日(金) 14:10～15:20

・大学の授業科目である「リベラルアーツ基礎D(MG史)」への授業協力を行いました。

・大学のボランティア活動団体「桜ヶ丘古文書プロジェクト」(歴史資料等の保全・資料撮影活動)への資料提供を行いました。

・Glory to God vol.171、172へ寄稿しました。

「受け継がれていくものー歴史のこぼればなしー」

Vol.1 レンガ校舎のはじまり、Vol.2 100年前の創立記念行事

・『資料室年報第30号』を刊行しました。

目次

1. 巻頭言 佐々木哲夫
2. 仏教とキリスト教ー日本の多元的宗教文化ー 佐々木哲夫
3. 2024年度宮城学院創立記念講演
宮城学院と私ーリーダーシップの学びと経営者としての視点ー 佐藤博美
4. 宮城学院女子大学における「自校史教育」の実践
ー「主体的な学び」の実現に向けた試行錯誤の軌跡ー 小羽田誠治
5. 宮城女学校の戦時期学籍簿の検討(3)
ー1937(昭和12)年から1941(昭和16)年学籍簿一覧ー 佐藤亜紀
6. 宮城学院女子大学構内に生息するサンショウウオの新種認定
の経緯とこれまでの調査研究 藤原愛弓
7. 宮城学院の植物たち その5ーヒメジョオンー 松本 周
木村春美

Ⅲ. 財務の概要

2024年度は、学生生徒園児総数目標 4,034 名に対し、実績 3,520 名となりました。施設設備整備事業として音楽館・学生センター屋上防水改修及び外壁改修工事(1年目)・大学図書館屋上防水改修及び外壁改修工事(2年目)、大学講堂・学生センター内壁タイル脱落対策工事、講義館耐震改修工事(第2期)等を実施しました。臨時的事業計画として GAKUEN/UNIPA 及び証明書自動発行機更新(第2期)等を、食品栄養学科ガスクロマトグラフ質量分析計更新等を実施しました。

2024年度法人全体として、教育活動収支差額は△41,623 千円、教育活動外収支差額は 60,362 千円、経常収支差額は 18,739 千円となりました。以下、本年度決算の概要について報告します。

1. 事業活動収支計算書

当該会計年度の収支を経常的な収支と特別な収支(臨時的収支)に区分し、経常的な収支については、本業である教育活動収支と、財務活動を中心とする教育活動外収支に分けて、内容を明らかにするとともに、当該会計年度の基本金組入額を控除して事業活動収入及び事業活動支出の均衡の状態を明らかにすることを目的としています。

(1) 教育活動収支

教育活動収入計は、昨年比 67,888 千円減の 4,686,353 千円となりました。教育活動支出計は、昨年比 72,407 千円増の 4,727,976 千円となりました。教育活動支出の主なものとして、人件費(退職金及び退職給与引当金繰入額を含む)は昨年比 43,842 千円減の 2,571,418 千円、教育研究経費(減価償却額を含む)は昨年比 66,584 千円増の 1,852,818 千円、管理経費(補助活動事業支出及び減価償却額を含む)は昨年比 47,610 千円増の 300,149 千円となりました。

教育活動収入計から教育活動支出を差し引いた教育活動収支差額は、昨年比 140,296 千円減の △41,623 千円となりました。

(2) 教育活動外収支

教育活動外収入計は、全て受取利息・配当金で昨年比 6,089 千円減の 60,600 千円となっています。教育活動外支出計は全て借入金等利息で 238 千円です。

以上により、教育活動外収支差額は、昨年比 6,039 千円減の 60,362 千円となっています。

(3) 特別収支

特別収入計は、昨年比 24,977 千円増の 76,052 千円となりました。これは、その他の特別収入のうち、施設設備補助金として大学の私大研究設備整備費補助金が採択となったことによる 70,063 千円が主なものです。

特別支出計は、108,466 千円となりました。これは、正門南駐車場整備工事に伴う旧幼稚園園舎の除却、図書除却による資産処分差額が主なものです。

以上、特別収入計から特別支出計を差し引いた特別収支差額は△32,414 千円となっています。

(4) 基本金組入額

基本金は、全体で 1,677,359 千円を組入れました。第1号基本金は、主に固定資産取得等によるもので 1,645,625 千円を組入れ、第3号基本金は、奨学基金 30,634 千円、教育基金 1,100 千円を計画どおり組入れました。第2号基本金は、学術情報館建設資金の計画廃止に伴い 644,099 千円の取崩しを行い基本金取崩額として表示しました。

(5) 当年度収支差額及び翌年度繰越収支差額

当年度収支差額は△1,691,034 千円となり、翌年度繰越収支差額は△3,662,206 千円となっています。

2. 資金収支計算書

当該会計年度に行う諸活動に対応する全ての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金(現金及びいつでも引き出すことができる預貯金をいう。)の収入及び支出のてん末を明らかにすることを目的としています。

- (1) 2024年度の資金収入は、前年度繰越支払資金2,180,873千円を含めた資金収入全体が9,214,635千円となり、前年度と比べて594,205千円増となりました。翌年度繰越支払資金は、2,087,672千円となり、前年度と比較し93,201千円減となりました。
- (2) 収入の部では、学生生徒等納付金収入、手数料収入は事業活動収支計算書の収入と同じです。新入生数に関する納付金等の前受金収入は、昨年比36,069千円減の567,398千円となりました。その他の収入には、各引当特定資産からの取崩収入等が含まれています。
- (3) 支出の部では、人件費支出には退職金支出197,004千円が含まれています。借入金等返済支出は、さくら寮の建設資金借入返済を含め112,840千円となっています。施設関係支出は1,489,292千円で、前年度と比べ360,436千円増となりました。設備関係支出は前年度比6,733千円減の72,352千円となりました。資産運用支出は、減価償却引当資産等に976,516千円を繰入れました。

3. 貸借対照表は、資産の部、負債の部、純資産の部で構成され、当該年度末の財政状態を表すことを目的としています。

- (1) 資産の部は、合計24,428,282千円となり、前年度末24,522,712千円から94,430千円減となりました。有形固定資産は前年度末11,226,765千円から985,708千円増の12,212,473千円、特定資産は前年度末10,529,027千円から1,005,856千円減の9,523,170千円、その他の固定資産は前年度末370,506千円から42,373千円減の328,133千円となりました。なお、流動資産は前年度末2,396,412千円から31,909千円減の2,364,503千円となっています。
- (2) 負債の部は、固定負債の長期借入金が351,800千円、流動負債の短期借入金が96,840千円等により負債の部合計は、前年度末2,837,210千円より80,755千円減の2,756,455千円となりました。
- (3) 純資産の部の基本金は、全体で25,334,034千円となり、前年度末比で第1号基本金は1,645,625千円増、第2号基本金は644,098千円減、第3号基本金は31,734千円の増である。繰越収支差額の翌年度繰越収支差額は、△3,662,207千円となりました。
- (4) 資産の部合計24,428,282千円から負債の部合計2,756,455千円を差し引いた純資産の部合計は21,671,827千円となり、純資産構成比率(旧会計基準:自己資金構成比率)は、88.7%(前年度88.4%)となりました。また、運用資産の蓄積度を示す内部留保資産比率は、36.2%(前年度40.3%)となりました。なお、新学校法人会計基準で新設された積立率(運用資産/要積立額)は、学校法人の将来の確定的債務や奨学金の原資となる基金について、どの程度保有資産の裏付けがあるかを示す比率ですが、78.3%(前年度87.1%)となっています。

以 上

過去5年間の推移及び構成比率

1. 事業活動収支計算書関係

(1) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位 千円)

科目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	3,916,804	3,861,157	3,819,556	3,661,990	3,483,052
	手数料	52,143	50,196	49,469	45,325	39,058
	寄付金	71,621	78,387	96,671	41,215	45,930
	経常費等補助金	896,506	849,157	909,096	895,187	963,907
	付随事業収入	13,282	14,108	8,591	5,487	7,161
	雑収入	195,967	267,127	190,954	105,038	147,245
	教育活動収入計	5,146,323	5,120,132	5,074,337	4,754,241	4,686,353
	事業活動支出の部					
	人件費	2,881,484	2,951,512	2,739,576	2,615,260	2,571,418
	教育研究経費	1,541,730	1,793,438	1,738,189	1,786,233	1,852,818
	管理経費	313,189	290,110	279,347	252,539	300,149
	徴収不能額等	3,920	9,473	6,105	1,536	3,591
	教育活動支出計	4,740,323	5,044,533	4,763,218	4,655,568	4,727,976
教育活動収支差額	406,001	75,599	311,120	98,673	△ 41,623	
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	100,132	95,808	70,112	66,689	60,600
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	100,132	95,808	70,112	66,689	60,600
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	534	432	351	288	238
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	534	432	351	288	238
教育活動外収支差額	99,598	95,377	69,762	66,401	60,362	
経常収支差額	505,599	170,976	380,881	165,074	18,739	
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	0	0	55
	その他の特別収入	18,068	8,733	10,827	51,075	75,997
	特別収入計	18,068	8,733	10,827	51,075	76,052
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	10,499	195,306	70,519	14,912	100,894
	その他の特別支出	87,683	1,472	2,318	24	7,572
	特別支出計	98,182	196,778	72,837	14,936	108,466
特別収支差額	△ 80,115	△ 188,045	△ 62,009	36,139	△ 32,414	
基本金組入前当年度収支差額	425,484	△ 17,068	318,872	201,213	△ 13,675	
基本金組入額合計	△ 221,071	△ 194,800	△ 212,496	△ 1,200,887	△ 1,677,359	

当年度収支差額	204,413	△ 211,868	106,376	△ 999,674	△ 1,691,034
前年度繰越収支差額	△1,714,517	△1,510,104	△1,721,972	△1,615,596	△ 1,691,035
基本金取崩額	0	0	0	0	644,099
翌年度繰越収支差額	△1,510,104	△1,721,972	△1,615,596	△2,615,271	△ 3,662,207

(参考)

事業活動収入計	5,264,523	5,224,674	5,155,277	4,872,006	4,823,005
事業活動支出計	4,839,039	5,241,742	4,836,405	4,670,793	4,836,680

(2) 財務比率の経年比較

	比率	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
1	人件費比率	54.9%	56.6%	53.3%	54.2%	54.2%
2	人件費依存率	73.6%	76.4%	71.7%	71.4%	73.8%
3	教育研究経費比率	29.4%	34.4%	33.8%	37.1%	39.0%
4	管理経費比率	6.0%	5.6%	5.4%	5.2%	6.3%
5	借入金等利息比率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6	事業活動収支差額比率	8.1%	-0.3%	6.2%	4.1%	-0.3%
7	基本金組入後収支比率	95.9%	104.2%	97.8%	127.2%	153.8%
8	学生生徒等納付金比率	74.7%	74.0%	74.2%	76.0%	73.4%
9	寄付金比率	1.5%	1.6%	2.0%	0.9%	1.1%
10	経常寄付金比率	1.4%	1.5%	1.9%	0.9%	1.0%
11	補助金比率	17.2%	16.3%	17.7%	19.3%	21.4%
12	経常補助金比率	17.1%	16.3%	17.7%	18.6%	20.3%
13	基本金組入率	4.2%	3.7%	4.1%	24.6%	34.8%
14	減価償却額比率	8.8%	8.0%	8.4%	9.1%	9.3%
15	経常収支差額比率	9.6%	3.3%	7.4%	3.4%	0.4%
16	教育活動収支差額比率	7.9%	1.5%	6.1%	2.1%	-0.9%

2. 資金収支計算書関係

(1) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位 千円)

収入の部	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
学生生徒等納付金収入	3,916,804	3,861,157	3,819,556	3,661,990	3,483,052
手数料収入	51,912	50,196	49,469	45,325	39,058
寄付金収入	68,228	74,785	93,724	38,500	43,874
補助金収入	905,942	851,812	913,991	939,230	1,033,970
資産売却収入	0	70,010	0	0	180
付随事業・収益事業収入	45,946	46,681	40,702	33,189	38,828
受取利息・配当金収入	100,132	95,469	70,112	66,689	60,600
雑収入	198,906	266,121	189,943	106,477	146,840
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	652,856	678,052	629,277	603,467	567,398
その他の収入	673,918	1,157,203	805,914	1,423,623	2,442,413
資金収入調整勘定	△ 902,443	△ 928,952	△ 883,013	△ 783,569	△ 822,451
前年度繰越支払資金	1,700,249	1,847,136	2,258,055	2,485,509	2,180,873
収入の部合計	7,412,450	8,069,670	7,987,730	8,620,430	9,214,635

支出の部	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
人件費支出	2,895,260	3,012,744	2,767,838	2,629,290	2,611,713
教育研究経費支出	1,147,502	1,399,961	1,349,727	1,379,980	1,424,228
管理経費支出	281,261	268,567	260,332	228,096	290,661
借入金等利息支出	534	432	351	288	238
借入金等返済支出	132,840	132,840	112,840	112,840	112,840
施設関係支出	127,878	196,866	267,305	1,128,856	1,489,292
設備関係支出	63,645	102,463	58,888	79,085	72,352
資産運用支出	799,885	775,153	743,509	571,809	1,165,509
その他の支出	326,119	310,999	505,848	661,645	433,149
資金支出調整勘定	△ 209,609	△ 388,410	△ 564,417	△ 352,332	△ 473,019
翌年度繰越支払資金	1,847,136	2,258,055	2,485,509	2,180,873	2,087,672
支出の部合計	7,412,450	8,069,670	7,987,730	8,620,430	9,214,635

(2) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

科目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	5,174,372	5,147,190	5,101,668	4,778,062	4,714,335
教育活動資金支出計	4,322,340	4,679,800	4,375,578	4,237,342	4,319,029
差引	852,032	467,390	726,089	540,720	395,306
調整勘定等	△ 106,098	36,366	△ 33,176	35,539	81,128
教育活動資金収支差額	745,933	503,755	692,914	576,259	476,434
施設整備等活動による資金収支					

	施設整備等活動資金収入計	146,669	353,741	159,289	1,014,077	2,045,176
	施設整備等活動資金支出計	599,007	743,497	801,960	1,654,241	2,538,159
	差引	△ 452,339	△ 389,756	△ 642,671	△ 640,164	△ 492,983
	調整勘定等	△ 39,701	76,780	259,604	△ 230,692	△ 74,799
	施設整備等活動資金収支差額	△ 492,040	△ 312,977	△ 383,067	△ 870,856	△ 567,782
	小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）	256,578	253,894	190,779	309,847	△ 91,348
その他の活動による資金収支						
	その他の活動資金収入計	530,086	787,613	447,697	319,828	376,361
	その他の活動資金支出計	637,092	567,473	530,089	329,868	378,214
	差引	△ 107,006	220,140	△ 82,392	△ 10,039	△ 1,853
	調整勘定等	0	0	0	0	0
	その他の活動資金収支差額	△ 107,006	220,140	△ 82,392	△ 10,039	△ 1,853
	支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	169,831	146,888	410,919	227,454	△ 93,201
	前年度繰越支払資金	1,530,417	1,700,249	1,847,136	2,258,055	2,180,873
	翌年度繰越支払資金	1,700,249	1,847,136	2,258,055	2,485,509	2,087,672

（３）財務比率の経年比較

	比率	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
1	教育活動資金収支差額比率	14.4%	9.8%	13.6%	12.1%	10.1%

3. 貸借対照表関係

(1) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位 千円)

科目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
固定資産	22,288,810	21,836,596	21,960,606	22,126,300	22,063,778
流動資産	2,109,239	2,598,911	2,754,576	2,396,413	2,364,504
資産の部合計	24,398,050	24,435,508	24,715,182	24,522,712	24,428,282
固定負債	2,136,765	1,992,152	1,845,673	1,713,427	1,578,613
流動負債	1,078,798	1,277,938	1,385,220	1,123,783	1,177,842
負債の部合計	3,215,564	3,270,090	3,230,893	2,837,210	2,756,455
基本金	22,692,590	22,887,390	23,099,886	24,300,773	25,334,034
繰越収支差額	△ 1,510,104	△ 1,721,972	△ 1,615,596	△ 2,615,271	△ 3,662,207
純資産の部合計	21,182,486	21,165,418	21,484,290	21,685,502	21,671,827
負債及び純資産の部合計	24,398,050	24,435,508	24,715,182	24,522,712	24,428,282

(2) 財務比率の経年比較

	比率	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
1	固定資産構成比率	91.4%	89.4%	88.9%	90.2%	90.3%
2	有形固定資産構成比率	45.5%	43.8%	42.6%	45.8%	50.0%
3	特定資産構成比率	43.8%	43.8%	44.7%	42.9%	39.0%
4	流動資産構成比率	8.6%	10.6%	11.1%	9.8%	9.7%
5	固定負債構成比率	8.8%	8.2%	7.5%	7.0%	6.5%
6	流動負債構成比率	4.4%	5.2%	5.6%	4.6%	4.8%
7	内部留保資産比率	38.2%	39.6%	41.7%	40.3%	36.2%
8	運用資産余裕比率	238.8%	222.3%	252.2%	251.0%	219.7%
9	純資産構成比率	86.8%	86.6%	86.9%	88.4%	88.7%
10	繰越収支差額構成比率	-6.2%	-7.0%	-6.5%	-10.7%	-15.0%
11	固定比率	105.2%	103.2%	102.2%	102.0%	101.8%
12	固定長期適合率	95.6%	94.3%	94.1%	94.6%	94.9%
13	流動比率	195.5%	203.4%	198.9%	213.2%	200.7%
14	総負債比率	13.2%	13.4%	13.1%	11.6%	11.3%
15	負債比率	15.2%	15.5%	15.0%	13.1%	12.7%
16	前受金保有率	282.9%	333.0%	395.0%	361.4%	367.9%
17	退職給与引当特定資産 保有率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
18	基本金比率	110.1%	107.6%	107.1%	107.3%	104.8%
19	減価償却比率	58.6%	59.8%	62.0%	61.4%	63.0%
20	積立率	89.4%	93.1%	94.4%	87.1%	78.3%

4. その他

(1) 有価証券の状況

種類	貸借対照表計上額	時価	差額
債券	4,496,435,970	4,273,353,800	△223,082,170
時価のない有価証券	2		
有価証券合計	4,496,435,972		

(2) 借入金の状況

借入先	期末残高 (円)	利率	返済期限等
日本私立学校振興共済事業団	266,640,000	1.50%	2030年9月15日
七十七銀行長命ヶ丘支店	65,200,000	0.102%	2029年3月20日
仙台銀行桜ヶ丘支店	36,000,000	0.15%	2029年3月25日
三井住友信託銀行仙台支店	80,800,000	0.102%	2028年3月30日
合計額	448,640,000		

(3) 学校債の状況

学校債は発行していない。

(4) 収益事業の状況

収益事業は行っていない。

IV. 資料

1. 理事会、評議員会の開催状況

(1) 理事会の開催状況

開催年月日	議 題
2024（令和6）年 5月28日（火） （定期）	<ol style="list-style-type: none"> 2023年度事業報告（案）について 2023年度決算（案）について 2023年度資産運用報告について 私立学校法改正に伴う寄附行為の改正方針について 中高新校舎（教室棟）整備事業について 2024年度入試結果分析について 理事の競業取引について 2024年度監事監査計画について
7月30日（火） （定期）	<ol style="list-style-type: none"> 寄附行為改正について
9月24日（火） （定期）	<ol style="list-style-type: none"> 私立学校法改正に伴う内部統制システムの整備について 音楽館屋上防水改修及び外壁改修工事について 分電盤改修工事（第三期 音楽館・家政館）について 分電盤改修工事（第三期 音楽館・家政館）監理業務について
9月30日（月） （臨時）	<ol style="list-style-type: none"> 上谷刈土地造成工事について
10月29日（火） （臨時）	<ol style="list-style-type: none"> 大学教員の不祥事について
11月26日（火） （定期）	<ol style="list-style-type: none"> 寄附行為施行細則の改正について 内部統制システム整備の基本方針について 2025年度予算編成方針案について 大学学術情報館建設計画の取下げについて 第2号基本金「学術情報館建設資金」組入計画の廃止に伴う取崩しについて
2025（令和7）年 1月28日（火） （定期）	<ol style="list-style-type: none"> 2024年度補正予算（案）について 宮城学院理事会運営規程の制定について 宮城学院常任理事会規程の制定について 宮城学院理事等の職務及び決裁権限規程の制定について 宮城学院財務書類等の閲覧等に関する規程の制定について 監事監査意見について（報告） 中高新校舎（教室棟）整備事業について 訴訟について
3月25日（火） （定期）	<ol style="list-style-type: none"> 創立140周年記念事業募金計画について 「少子化時代を支える新たな私立学校等の経営改革支援」（メニュー1 少子化時代をキラリと光る教育力で乗り越える、私立学校等戦略的経営改革支援）について（報告） 宮城学院女子大学ジェンダー教育研究センターの設置について キャンパス整備計画について

	<ul style="list-style-type: none"> 5. 2025年度事業計画（案）について 6. 2025年度予算（案）について 7. 宮城学院評議員会運営規程の制定について 8. 宮城学院監事監査等職務規程の制定について 9. 宮城学院役員の報酬等に関する規程の一部改正について 10. 寄附行為施行細則に定める役職者の給与に関する規程の一部改正について 11. 宮城学院理事長特別補佐に関する規程の制定について 12. 学校法人宮城学院リスク管理規定の制定について 13. 宮城学院女子大学学則の改定について 14. 宮城学院女子大学大学院学則の改定について 15. 名誉教授候補者の推薦について 16. 役員に対する補償契約について 17. 役員賠償責任保険契約について
--	---

(2) 常任理事会の開催状況

開催年月日	議 題
2024（令和6）年 4月16日（火）	<ul style="list-style-type: none"> 1. 2024年度資金運用計画について 2. 2023年度大学経常費補助金の総括について（報告） 3. 2023年度中高運営費補助金の総括について（報告）
4月30日（火）	<ul style="list-style-type: none"> 1. 2025年度大学一号特任教員（現代ビジネス学科）「地域観光論」担当の採用について 2. 2026年度大学専任教員（観光学科（仮称））「観光学」担当の採用について 3. 2026年度大学一号特任教員（観光学科（仮称））「文化ビジネス」担当の採用について 4. 2026年度大学一号特任教員（観光学科（仮称））「観光ビジネス」担当の採用について 5. 2026年度大学二号特任教員（英語文化コミュニケーション学科（仮称））「メディア・コミュニケーション」担当の採用について 6. 2026年度大学二号特任教員（英語文化コミュニケーション学科（仮称））「英語教育」担当の採用について 7. 宮城学院事務組織規程の一部改正について 8. 2024年度予算における支出削減について（報告）
5月14日（火）	<ul style="list-style-type: none"> 1. 2023年度事業報告（案）について 2. 中高専任教員の退職について
5月21日（火）	<ul style="list-style-type: none"> 1. 2023年度事業報告（案）について 2. 2023年度決算（案）について 3. 2023年度資産運用報告について 4. 私立学校法改正に伴う寄附行為の改正方針について 5. 中高教室棟建設計画について 6. 2024年度入試結果分析について 7. 2024年度監事監査計画について 8. 2024年度教務嘱託職員（教育学科副手、食品栄養学科助手）の採用について

	<p>て</p> <p>9. 2025年度大学教員採用計画の申請について</p> <p>10. 宮城学院事務職員等土曜休暇制度に関する規程の廃止について</p>
6月4日(火)	1. 2024年度一時金について
6月11日(火)	<p>1. こども園嘱託保育教諭の退職について</p> <p>2. 2024年度事務嘱託職員(キャリア支援課)の採用について</p> <p>3. 宮城学院女子大学選挙管理委員会規程の廃止について</p> <p>4. 宮城学院女子大学規程検討委員会規程の改正について</p> <p>5. 宮城学院学業特待奨学金(プールボー奨学金)に関する規程の一部改正について</p> <p>6. 宮城学院奨学会規程の一部改正について</p> <p>7. 講義館耐震改修工事(第二期)の契約について</p> <p>8. 2024年度一時金について</p>
6月25日(火)	<p>1. 寄附行為改正について</p> <p>2. 2024年度中高理科産休代替契約教員採用計画について</p> <p>3. 学生センター屋上防水改修及び外壁改修工事について</p>
7月9日(火)	<p>1. 寄附行為改正について(継続)</p> <p>2. 2024年度教務嘱託職員の採用について</p> <p>3. 2024年8月事務局人事について</p> <p>4. 2025年度再雇用について</p> <p>5. 宮城学院女子大学博英賞(星澤英子奨学金)に関する規程の制定について</p> <p>6. 2023年度中高等学校評価について</p> <p>7. 創立140周年記念事業計画委員会について</p>
7月23日(火)	<p>1. 寄附行為改正について(継続)</p> <p>2. 大学専任教員の退職について</p> <p>3. 大学教員(一号特任教員)の退職について</p> <p>4. 宮城学院学業特待奨学金(プールボー奨学金)に関する規程の一部改正について</p> <p>5. 中高非常勤講師並びにこども園非常勤保育教諭の定年年齢の引き上げについて</p> <p>6. 東北福祉大学との包括連携協力に関する協定及び高大連携・接続に関する覚書の締結について</p> <p>7. 2024年度教職員永年勤続者の表彰について</p>
8月6日(火)	<p>1. こども園嘱託保育教諭の退職について</p> <p>2. 教育学部教育学科幼児教育専攻教務嘱託職員の雇用継続について</p> <p>3. 2024年度教務嘱託職員採用計画について</p> <p>4. 2024年度産休代替教務嘱託職員採用計画について</p> <p>5. 2024年度こども園嘱託保育教諭採用計画について</p> <p>6. 宮城学院女子大学学生の懲戒に関するガイドライン改定について</p>
9月10日(火)	<p>1. 専任事務職員の退職について</p> <p>2. 事務嘱託職員の退職について</p> <p>3. 2024年度こども園嘱託保育教諭(派遣保育教諭)の採用計画について</p> <p>4. 2024年度こども園臨時職員の雇用について</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 5. 宮城学院女子大学契約教員（二号特任教員）の定年年齢の引き上げについて 6. 2024（令和6）年度人事院報告について（報告）
9月17日（火）	<ul style="list-style-type: none"> 1. 私立学校法改正に伴う内部統制システムの整備について 2. 音楽館屋上防水改修及び外壁改修工事について 3. 分電盤改修工事（第三期 音楽館・家政館）について 4. 分電盤改修工事（第三期 音楽館・家政館）監理業務について 5. 2025年度中高専任教員（英語及び理科）の採用計画について 6. 宮城県最低賃金の改定に伴う学内対応について
9月24日（火）	<ul style="list-style-type: none"> 1. 上谷刈土地造成工事について 2. 2025年度大学一号特任教員（現代ビジネス学科）「経営学B」担当の採用について 3. 2025年度大学二号特任教員（教育学科）「教育実践」担当の採用について 4. 2025年度大学二号特任教員（生活文化デザイン学科）「都市計画」担当の採用について 5. 2024年度教務嘱託職員（英文学科副手）の採用について 6. 2025年度大学教員採用計画の申請について 7. 学科改組に伴う教員人事計画の申請について 8. 2024年度産休代替教務嘱託職員採用計画について
10月8日（火）	<ul style="list-style-type: none"> 1. 中高専任教員の退職について 2. 2025年度大学一号特任教員（現代ビジネス学科）「地域観光論」担当の採用について 3. 2024年度産休代替教務嘱託職員（心理行動科学科副手）の採用について 4. 中高専任教員産前産後休暇取得に伴う契約教員（常勤講師）の任用替えについて 5. 2025年度中高専任教員（国語科）の採用計画について 6. こども園教職員の雇用の在り方について
10月29日（火）	<ul style="list-style-type: none"> 1. 2025年度大学専任教員（教育学科）「社会福祉」担当の採用について 2. 2025年度大学専任教員（教育学科）「スポーツ健康科学」担当の採用について 3. 2025年度大学専任教員（一般教育部）「キリスト教学」担当の採用について 4. 2025年度大学一号特任教員（心理行動科学科）「感性心理学」担当の採用について 5. 2025年度大学二号特任教員（日本文学科）「日本文学（中古文学）」担当の採用について 6. 2025年度大学産休代替教員採用計画について 7. 2025年度中高教務嘱託職員の採用計画について 8. 大学役員の交代について 9. 2025年度大学教員特別研修休暇について 10. 宮城学院女子大学教授会採用人事及び昇任人事に関する規程の改定について 11. 宮城学院女子大学期間を定めて任用する教員に関する規程の改定について

	<ul style="list-style-type: none"> 12. 弘光科技大学（台湾）との協定締結について 13. 宮城県味噌醤油工業協同組合との連携協力に関する協定書の締結について 14. 東京大学「高校生と大学生のための金曜特別講座」のインターネット配信に関する協定締結について 15. ガスクロマトグラフ質量分析計の納入契約について
11月12日（火）	<ul style="list-style-type: none"> 1. 2025年度大学教員採用計画について 2. 2024年度理科産休代替非常勤講師の採用計画について
11月19日（火）	<ul style="list-style-type: none"> 1. 寄附行為施行細則の改定について 2. 内部統制システム整備の基本方針について 3. 2025年度予算編成方針案について 4. 大学学術情報館建設計画の取下げについて 5. 第2号基本金「学術情報館建設資金」組入計画の廃止に伴う取崩しについて 6. 2024年度中高教務嘱託職員の採用について 7. 大学講堂天井破損部他修繕工事の契約について 8. 学内3組合の要求への回答について
12月3日（火）	<ul style="list-style-type: none"> 1. 宮城学院理事会運営規程の制定 2. 宮城学院常任理事会規程の制定 3. 大学教員（業務限定正教員）の退職について 4. 大学教員（一号特任教員）の退職について 5. 2024年度産休代替教務嘱託職員採用計画について 6. 2024年度中高数学科病気休暇代替非常勤講師の採用計画について 7. 宮城学院女子大学附属認定こども園就業規則の制定について 8. 宮城学院女子大学附属認定こども園給与規定の制定について 9. 学生の懲戒に関するガイドラインの改正について
12月24日（火）	<ul style="list-style-type: none"> 1. 宮城学院理事会運営規程の制定について（継続） 2. 宮城学院常任理事会規程の制定について（継続） 3. 宮城学院理事等の職務及び決裁権限規程の制定について 4. 宮城学院財務書類等の閲覧等に関する規程の制定について 5. 2025年度大学一号特任教員「学生相談室主任」の採用について 6. 2025年度中高専任教員（英語科）の採用について 7. 2025年度中高専任教員（国語科）の採用について 8. 2025年度大学教員採用計画の申請について 9. 2025年度大学生生活科学部食品栄養学科教務職員（専任助手）採用計画について 10. 2025年度大学教務嘱託職員（食品栄養学科助手）採用計画について 11. 2024年度大学臨時職員（実験・実習系授業補助員）採用計画について 12. 2025年度こども園採用計画について 13. 専任事務職員育児休業者の代替職員採用計画について 14. 中高専任教員病気休暇取得に伴う契約教員（常勤講師）の任用替えについて 15. 宮城学院女子大学附属認定こども園就業規則の制定について（継続） 16. 宮城学院女子大学附属認定こども園給与規定の制定について（継続）

	<ul style="list-style-type: none"> 17. 宮城学院女子大学教授会役員等選任規程の改正について 18. 学生センター外壁石綿除去工事について
2025（令和6）年 1月14日（火）	<ul style="list-style-type: none"> 1. 宮城学院理事等の職務及び決裁権限規程の制定について（継続） 2. 宮城学院財務書類等の閲覧等に関する規程の制定について（継続） 3. 大学教員（専任教員）の退職について 4. 2025年度中高契約教員採用計画について 5. 2025年度教務嘱託職員（理科実験助手）採用計画について 6. 学内3組合の要求への回答について
1月21日（火）	<ul style="list-style-type: none"> 1. 2024年度補正予算（案）について 2. 2025年度大学教務嘱託職員採用計画について 3. 2025年度事務局嘱託職員等の採用計画について 4. 宮城学院女子大学契約教員（特命教員及び客員教員）の定年年齢について 5. 宮城学院女子大学教員の任期に関する規程の制定について 6. 宮城学院女子大学学長戦略室規程の改正について
2月18日（火）	<ul style="list-style-type: none"> 1. 宮城学院監事職務規程の制定について 2. 業務限定正職員（教務）の退職について 3. 2025年度中高専任教員（理科）の採用について 4. 2025年度こども園専任教員（保育教諭）の採用について 5. 2025年度こども園専任教員（管理栄養士）採用計画について 6. 2025年度事務局業務限定正職員（一般）の採用計画について 7. 2025年度中高学校生活支援コーディネーター採用計画について 8. 2025年度中高スクールカウンセラー採用計画について 9. 2025年度大学臨時職員（実験・実習系授業補助員）採用計画について 10. 2025年度事務局嘱託職員の契約更改について 11. 中高非常勤講師の5年を超える雇用について 12. 2024年度大学退職非常勤講師について 13. 2024年度こども園退職保育教諭について 14. こども園臨時教員（保育補助）の退職について 15. 大学みつばち共同事業・アドバイザー（顧問）の契約更改について 16. 宮城学院女子大学教授会規程の改正について 17. 宮城学院女子大学学部会議・学科会議既定の制定について 18. 宮城学院女子大学期間を定めて任用する議員に関する規程の改正について 19. 宮城学院女子大学教務センター規程の改正について 20. 宮城学院女子大学入試センター規程の改正について 21. 宮城学院女子大学学生生活センター規程の改正について 22. 宮城学院女子大学学術情報センター規程の改正について 23. 宮城学院女子大学社会連携センター規程の改正とそれに伴う宮城学院女子大学地域連携センター規程の廃止について 24. 宮城学院女子大学生涯学習センター規程の改正について 25. 宮城学院女子大学リエゾンアクションセンター（MG-LAC）規程の改正について 26. 宮城学院女子大学キャリア支援センター規程の改正について
2月25日（火）	<ul style="list-style-type: none"> 1. 宮城学院評議員会運営規程の制定について

	<ol style="list-style-type: none"> 2. 2025年度こども園専任教員（保育教諭）の採用について 3. 2025年度中高社会科契約教員（常勤講師）の採用について 4. 2025年度教務嘱託職員（教育学部教育学科副手）の採用について 5. 2024年度産休代替教務嘱託職員（生活科学部食品栄養学科助手）の採用について 6. 2025年度こども園嘱託保育教諭（育休代替）の採用計画について 7. 2025年度中高契約教員の契約更改並びに契約満了契約教員について 8. 2025年学校生活支援コーディネーターの契約更改について 9. 2025年度中高スクールカウンセラーの契約更改について 10. 2025年度こども園嘱託保育教諭の契約更改について 11. 2024年度大学特任教員及び特命教員の退職について 12. 2024年度大学退職非常勤について 13. 2025年度宮城学院中学校高等学校執行体制について 14. 創立140周年記念事業募金計画について
3月4日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宮城学院女子大学大学院学則の改正について 2. 名誉教授候補者の推薦について 3. 2025年度大学教務職員（食品栄養学科助手）の採用について 4. 2025年度大学一号特任教員（学生相談・特別支援センター）「特別支援室主任」の採用について 5. 2025年度大学二号特任教員（人間文化学科）「フランス文化」担当の採用について 6. 2025年度大学教務嘱託職員（日本文学科副手）の採用について 7. 2025年度中高教務嘱託職員（理科実験助手）の採用について 8. 大学昇任人事について 9. 2025年4月事務局人事について 10. 宮城学院女子大学ジェンダー教育研究センターの設置について 11. 宮城学院女子大学教授会規程の改正について 12. 宮城学院女子大学学術情報センター規程の改正について 13. 宮城学院女子大学音楽リエゾンセンター規程の改正について 14. 宮城学院女子大学教授会役員等選任規程の改正について 15. 宮城学院女子大学進級に関する内規の改正について 16. 宮城学院女子大学学生寮規程の改正について 17. 宮城学院女子大学学生寮規程細則の改正について 18. 宮城学院女子大学奨学金規程の改正について 19. 宮城学院女子大学ワークスタディに関する規程の改正について 20. 宮城学院女子大学国際交流センター規程の改正について 21. 宮城学院女子大学大学院教員審査基準細則の改正について 22. キャンパス整備計画について 23. 「少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援」(メニュー1 少子化時代をキラリと光る教育力で乗り越える、私立大学等戦略的経営改革支援) について
3月11日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2025年度事業計画（案）について 2. 2025年度予算（案）について

	<ol style="list-style-type: none"> 3. 宮城学院監査等職務規程の制定について（継続） 4. 宮城学院評議員会運営規程の制定について（継続） 5. 宮城学院役員の報酬等に関する規程の一部改正について 6. 寄附行為施行細則に定める役職者の給与に関する規程の一部改正について 7. 2025年度事務嘱託職員（施設課）の採用について 8. 2025年度特任・特命教員の契約更改について 9. 2025年度教務嘱託職員等の契約更改について 10. 宮城学院女子大学ジェンダー教育研究センター顧問の契約更改について 11. 宗教主事の契約更改について 12. 内部監査室長（顧問）契約更改について 13. 2024年度内部監査報告について 14. 2025年度内部監査（定期監査）実施について 15. 2025年度大学役員等について
3月18日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2025年度事業計画（案）について（継続） 2. 2025年度予算（案）について 3. 宮城学院女子大学学則改定について 4. 宮城学院理事長特別補佐に関する規程の制定について 5. 学校法人宮城学院リスク管理規定の制定について 6. 寄附行為及び寄附行為施行細則の改正に伴う各種規程の一部改正について 7. 2025年度大学教務職員（食品栄養学科助手）の採用について 8. 2025年度こども園専任職員（管理栄養士）の採用について 9. 2025年度事務局業務限定正職員（一般）の採用について 10. 2025年度中高家庭科契約教員（常勤講師）の採用について 11. 2025年度大学教務嘱託職員（食品栄養学科助手）の採用について 12. 2025年度特任教員の契約更改について 13. 2025年度大学教務嘱託職員採用計画について 14. 中高専任教員の復職について 15. 2024年度中高契約満了非常勤講師について 16. 宮城学院就業規則及び宮城学院給与規定の一部改正について 17. 宮城学院旅費規程の改正について 18. 宮城学院女子大学附属認定こども園給与規定の一部改正及び宮城学院女子大学附属認定こども園退職手当支給規程の制定について 19. 宮城学院63歳定年退職者の再雇用に関する規程の一部改正について 20. 育児・介護休業法改正に伴う関連規定の改正について 21. 宮城学院女子大学スポーツサイエンスラボ（MG-SpoLab）規程の廃止について 22. 梨花女子大学（韓国）及びオークランド大学（ニュージーランド）との協定締結について 23. 音楽館・体育館変圧器更新工事について

(3) 評議員会の開催状況

開催年月日	議 題
2024（令和6）年 5月28日（火） （定期）	1. 2023年度事業報告（案）について 2. 2023年度決算（案）について 3. 私立学校法改正に伴う寄附行為の改正方針について
7月30日（火） （臨時）	1. 寄附行為改正について
9月30日（月） （臨時）	1. 上谷刈土地造成工事について
10月29日（火） （臨時）	1. 大学教員の不祥事について
11月26日（火） （定期）	1. 寄附行為施行細則の改正について 2. 大学学術情報館建設計画の取下げについて
2025（令和7）年 1月28日（火） （臨時）	1. 2024年度補正予算（案）について
3月25日（火） （定期）	1. 創立140周年記念事業募金計画について 2. 2025年度事業計画（案）について 3. 2025年度予算（案）について 4. 宮城学院評議員会運営規程の制定について 5. 宮城学院監事監査等職務規程の制定について 6. 宮城学院役員の報酬等に関する規程の一部改正について

2. 法人、大学、中学校高等学校及びこども園の主要な行事等

(1) 法人（理事会・評議員会を除く）

年 月 日	行 事 等
2024（令和6年） 4月1日 22日 23日 24日	新任教職員辞令交付式・新任教職員研修 教職員健康相談 公認会計士監査 全学院教職員礼拝
5月14日～15日 15日 20日 22日	公認会計士監査 監事監査 教職員健康相談 全学院教職員礼拝
6月12日 19日 24日	公認会計士監査 全学院教職員礼拝 教職員健康相談
7月10日 22日	全学院教職員礼拝 教職員健康相談
8月9日～15日 19日 26日	一斉休暇 事務職員全体研修会 教職員健康相談

年 月 日	行 事 等
9月18日 30日	創立記念礼拝・永年勤続者表彰 教職員健康相談
10月3日～4日 16日 16日 28日	教職員健康診断 全学院防災訓練 全学院教職員礼拝 教職員健康相談
11月6日 7日～8日 18日 25日	全学院教職員礼拝 公認会計士監査 クリスマス・イルミネーション点灯式 教職員健康相談
12月4日～5日 7日 9日 23日 27日 28日～1月4日	公認会計士監査 クリスマスを祝う音楽会 教職員健康相談 宮城学院クリスマス礼拝 仕事納め 冬期休業
2025（令和7）年 1月6日 27日	仕事始め 全学院新年礼拝 教職員健康相談
2月17日 26日	教職員健康相談 全学院教職員礼拝
3月10日 11日 21日 27日～28日	教職員健康相談 東日本大震災記念礼拝 退職者辞令交付式 公認会計士監査

(2) 大学院・大学

年 月 日	行 事 等
2024（令和6）年 4月3日 4日 5日～8日 5日～8日 6日 9日 24日	さくら寮入寮式 入学式 健康診断 新入学生・編入学生・在学生ガイダンス 森のこども園入園式 前期授業開始日 学友会春季総会
5月21日 25日	新入生歓迎会 大学後援会総会
6月10日～14日 23日	キリスト教教育特別集会 オープンキャンパス
7月21日	オープンキャンパス

年 月 日	行 事 等
8月5日 6日～8日 9日～9月8日 16日～24日 25日	前期授業終了日 補講 夏季休業 連講 オープンキャンパス
9月9日 15日 27日	後期授業開始日 オープンキャンパス 9月期卒業生学位記授与式
10月11日～14日 12日～13日 19日 26日～27日	大学祭（準備・後片付け含む） オープンキャンパス 大学院第1回入試 総合型選抜Ⅰ期
11月1日 19日 23日	総合型選抜Ⅰ期合格発表 学友会秋季総会 学校推薦型選抜・編入学・TOEIC編入学・特別入試、転学科試験
12月2日 14日 17日 19日 23日 28日～1月4日	学校推薦型選抜・編入学・TOEIC編入学・特別入試、転学科試験合格発表 総合型選抜Ⅱ期 クリスマス礼拝 総合型選抜Ⅱ期合格発表 年内授業終了日 冬季休業
2025（令和7）年 1月6日 18日～19日 25日 27日～29日 30日～2月13日 30日～	授業開始日 大学入学共通テスト 後期授業終了日 補講 連講 春季休業
2月3日～4日 4日 12日 26日	一般選抜A日程（全学部型・学科特化型）・大学入学共通テスト利用選抜A日程 音楽科専門試験（一般選抜A日程・大学入学共通テスト利用選抜A日程） 一般選抜A日程、大学入学共通テスト利用選抜A日程合格発表 大学院第2回入試
3月7日 11日 17日 15日 19日 22日 24日	一般選抜B日程、音楽科専門試験（大学入学共通テスト利用選抜B日程）、特別入試 一般選抜B日程、音楽科専門試験（大学入学共通テスト利用選抜B日程）、特別入試合格発表 卒業・修了礼拝、卒業パーティー こども園修了式 学位記授与式 オープンキャンパス 一般選抜C日程（欠員補充）、大学入学共通テスト利用選抜C日程※音楽科

年 月 日	行 事 等
25 日	専門試験のみ 一般選抜 C 日程（欠員補充）、大学入学共通テスト利用選抜 C 日程合格発表

(3) 中学校高等学校

年 月 日	行 事 等
2024（令和6）年 4月8日 11～12日 17日 20日	始業式・入学式 高1オリエンテーションキャンプ イースター礼拝 PTA 総会
5月8日 11日 22日 27～31日	避難訓練 運動会 ペンテコステ礼拝・芸術鑑賞会 キリスト教教育週間
6月1～3日 18～19日 18～21日 25～27日 26日	宮城県高校総体 中学校前期中間試験 高校前期中間試験 中1リトリートキャンプ 塾対象入試説明会
7月18日 18～23日 19～8月21日 27日 29～30日	終業 保護者面談 夏休み 中学校オープンキャンパスⅠ サマーキャンプ
8月3日 22日 30～31日	高校オープンキャンパスⅠ 始業 文化祭（校内発表・一般公開）
9月6日 11日 12～19日 13～19日 27日 30日	中学創立記念行事 創立記念礼拝・講話 高校前期末試験 中学前期末試験 前期終業 後期始業
10月1～3日 8～11日 11日 12日 15日 19日 21～23日 22日 28日	中3校外研修旅行 高2校外研修旅行 高1遠足 中学校オープンキャンパスⅡ 収穫感謝礼拝 高校オープンキャンパスⅡ 中2イングリッシュキャンプ 高校スポーツ大会 宗教改革記念礼拝
11月1日	中学校合唱コンクール

年 月 日	行 事 等
2 日	中高入試対策講座 I
14 日	PTA 研修会
16 日	中高入試対策講座 II
26～29 日	高校後期中間試験
27～29 日	中 3 後期中間試験
28～29 日	中 1,2 後期中間試験
12 月 7 日	クリスマスを祝う音楽会
20 日	中高クリスマス礼拝・終業
21 日～1 月 8 日	冬休み
2025 (令和 7) 年	
1 月 7 日	中学 I 期入試
8 日	中学入試合格発表
9 日	始業
14 日	高 3 終業
15 日	高校推薦入試
25 日	中学校 II 期入試
30 日	高校入試 A 日程
2 月 1 日	高校入試 B 日程
8 日	中学 III 期入試
15 日	新中 1 オリエンテーション I
28 日	高 3 卒業礼拝
3 月 3 日	高校卒業式
6～16 日	海外研修
11 日	3.11 追悼礼拝
18 日	中学卒業式
19 日	終業式
24 日	新中 1 オリエンテーション II・新高 1 オリエンテーション
20～4 月 6 日	春休み

(4) 大学附属認定こども園「森のこども園」

年 月 日	行 事 等
2024 (令和 6) 年	
4 月 6 日	第 9 回入園式
8 日	第 1 学期始業式
26 日	イースター礼拝
5 月 10 日	親子ウォーキング・コイノニア (5 歳児)
15 日	親子ウォーキング・コイノニア (4 歳児)
17 日	親子ウォーキング・コイノニア (3 歳児)
23 日	内科健診
6 月 3 日	森の音楽会
4 日	歯科検診
14 日	花の日礼拝

年 月 日	行 事 等
7月12日～13日 19日 20日～8月24日	サマーキャンプ (5歳児) 第1学期終業式 1号認定児夏期休業
8月26日	第2学期始業式
9月6日 24日 25日 27日	創立記念礼拝 森の音楽会 遠足 (5歳児) 親子ピクニック (0・1・2歳児)
10月1日 4日 19日 22日 29日 30日 31日	2025年度募集要項配布開始 新入1号児入園説明会① 森のうんどうかい 新入1号児入園説明会② 内科健診 遠足 (4歳児) 森の音楽会
11月1日 6日～9日 11日 13日 15日	入園申込受付 森の芸術祭 新入園児面接 (1号児) 遠足 (3歳児) 収穫感謝礼拝
12月12日 13日 21日 17日～1月8日	クリスマス祝会 (4・5歳児) クリスマス祝会 (0・1・2・3歳児) クリスマス礼拝・第2学期終業式 1号認定児冬期休業
2025 (令和7) 年 1月9日 15日 17日 27日	第3学期始業式 新入園児オリエンテーション① 森の音楽会 新入園児面接 (2・3号)
2月22日	新入園児オリエンテーション (2・3号)
3月6日 7日 15日 19日 20日～4月9日	おいわい会 修了礼拝 第9回修了式 第3学期終業式 1号認定春期休業

3. 補助金の状況

○私立大学等経常費補助金<日本私立学校振興・共済事業団> (令和6年度)

学校別	区 分	補助事業に要する経費 (円)	補助金額 (円)	
大学	専任教員等給与費	1,019,599,000	134,731,000	
	内 訳	ア. 専任教員等給与費	962,414,000	123,883,000
		イ. 私立大学退職金財団掛金	57,185,000	10,848,000
	専任職員等給与費	414,180,000	52,498,000	
	内 訳	ア. 専任職員給与費	389,287,000	48,118,000
		イ. 私立大学退職金財団掛金	24,893,000	4,380,000
	非常勤教員給与費	183,644,000	8,039,000	
	教職員福利厚生費	121,832,000	18,692,000	
	教育研究経常費	1,231,310,000	159,319,000	
	厚生補導費	30,290,000	2,349,000	
	研究旅費	17,405,000	1,512,000	
合 計		3,018,260,000	377,140,000	

○特別補助(経常費補助金)内訳表

項目	補助金額 (円)
I 成長力強化に貢献する質の高い教育	
地方の職を支える人材育成	1,080,000
被災地等の復興支援	0
数理・データサイエンス・AI教育の充実	0
DXによる教育の質的転換支援	0
II 社会人の組織的な受入れ	0
III 大学等の国際交流の基盤整備	0
IV 大学院等の機能の高度化	
大学院における研究の充実	2,512,000
V 東日本大震災からの復興支援	0
VI 私立大学等改革総合支援事業	
タイプ1 『Society5.0』の実現等に向けた特色ある教育の展開	0
タイプ2 特色ある高度な研究の展開	0
タイプ3 地域社会の発展への貢献	10,800,000
タイプ4 社会実装の推進	0
VII 少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援	
メニュー1 少子化時代をキラリと光る教育力で乗り越える、私立大学等戦略的経営改革支援	17,000,000
メニュー2 複数大学等の連携による機能の共同化・高度化を通じた経営改革支援	0
VIII 令和6年 能登半島地震、梅雨前線、9月豪雨からの復興支援	0
合計	31,392,000

○令和6事業年度授業料等減免費交付金

事業の内容	交付金額(円)
大学等における修学の支援に関する法律による修学支援	216,896,000

○私立大学等研究設備整備費等補助金(私立大学等研究設備等整備費)＜文部科学省＞(令和6年度)

事業の内容	補助対象事業経費(円)	補助金額(円)
ガスクロマトグラフ質量分析計	18,085,195	9,042,000

○私立学校施設整備費補助金(私立学校教育研究装置等施設整備費(私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費))＜文部科学省＞(令和6年度)

事業の内容	補助対象事業経費(円)	補助金額(円)
講義館耐震改修工事(第二期)	122,042,228	61,021,000

○要配慮園児支援事業費補助金＜県補助＞(令和6年度)

区分 学校別	補助対象経費		補助金額(円)
	人件費(円)	経費(円)	
こども園	3,560,000	0	196,000

○私立学校運営費補助金＜県補助＞(令和6年度)

	内訳				補助対象経費 (円)	補助金額 (円)
	人件費(円)	経費(円)	設備費(円)	計(円)		
高等学校	280,566,615	122,704,297	1,304,421	404,575,333	202,287,666	171,626,916
中学校	138,315,170	41,925,947	375,579	180,616,696	90,308,348	37,381,978
こども園	80,585,080	23,744,118	142,300	104,471,498	52,235,749	1,176,000
合計	499,466,865	188,374,362	1,822,300	689,663,527		210,184,894

○私立学校教育改革推進特別経費補助金＜県補助＞(令和6年度)

区分 学校別	補助対象経費		補助金額(円)
	人件費(円)	経費(円)	
高等学校	280,566,615	122,704,297	1,050,000
中学校	138,315,170	41,925,947	600,000
合計	418,881,785	164,630,244	1,650,000

○仙台市私立学校振興補助金＜市補助＞(令和6年度)

区分 学校別	補助対象経費				補助金額(円)
	図書購入費 (円)	教材教具 購入費 (円)	学校管理用 備品購入費 (円)	計 (円)	
高等学校	1,440,059	285,150	475,584	2,200,793	2,200,000
中学校	233,593	0	0	233,593	233,200

○子ども・子育て支援制度 教育・保育給付費＜在園児所在市町村補助＞（令和6年度）

事業の内容	補助金額（円）
こども園の運営に係る補助	141,142,125

○認定こども園運営費補助金＜市補助＞（令和6年度）

事業の内容	補助対象経費（円）	補助金額（円）
こども園の運営に係る補助	1,350,085	1,300,000

○保育士等就労スタートアップ事業補助金＜市補助＞（令和6年度）

事業の内容	補助金額（円）
保育施設等に従事する若手職員の処遇改善に係る補助	176,120

○キャリアアップ研修参加支援助成金＜市補助＞（令和6年度）

事業の内容	補助金額（円）
キャリアアップ研修を受講する保育士等に係る補助	100,000

○私立保育所等助成＜市補助＞（令和6年度）

事業名称	補助金額（円）
栄養士・看護師雇用助成	274,800
増員保育士等助成	3,564,000
特別支援保育助成	1,680,000
増員調理員助成	1,388,400
合計	6,907,200

○病原性大腸菌対策関連消耗品購入及び病原性大腸菌対策検便費助成＜市補助＞（令和6年度）

事業名称	補助対象経費（円）	補助金額（円）
病原性大腸菌対策関連消耗品購入助成	132,660	68,820
病原性大腸菌対策検便費助成		37,000
合計	132,660	105,820

○預かり保育（1号認定）＜市補助＞（令和6年度）

事業名称	補助対象経費（円）	補助金額（円）
預かり保育推進事業補助金	2,111,237	630,000
仙台市一時預かり事業（幼稚園型）補助金		1,104,250
合計	2,150,342	1,734,250

○延長保育事業費補助金（2号認定）＜市補助＞（令和6年度）

事業の内容	補助対象経費（円）	補助金額（円）
延長保育に係る補助	8,278,829	1,926,000

○食材料費補助金<市補助> (令和6年度)

事業の内容	補助金額 (円)
食材料費に要した費用に係る補助	1,638,592

○電気・ガス等価格高騰対策事業補助金<市補助> (令和6年度)

事業の内容	補助金額 (円)
光熱費等に要した費用に係る補助 (こども園)	384,000
光熱費等に要した費用に係る補助 (児童クラブ)	48,000

○放課後児童健全育成事業補助金<市補助> (令和6年度)

事業の内容	補助対象経費 (円)	補助金額 (円)
宮城学院児童クラブ「森の家」	6,378,000	1,134,000

○放課後児童支援員等処遇改善事業費補助金<市補助> (令和6年度)

事業の内容	補助金額 (円)
放課後児童支援員等の処遇改善に係る補助	198,000

○結核定期健康診断補助金<市補助> (令和6年度)

学校別	事業の内容	補助対象経費 (円)	補助金額 (円)
高等学校	結核定期健康診断	124,630	83,086

○私立高等学校授業料軽減特別事業補助金<県補助> (令和6年度)

学校別	事業の内容	補助対象経費 (円)	補助金額 (円)
高等学校	入学金免除 (3名分)	125,000	125,000

○私立高等学校安全設備整備補助金<県補助>

学校別	事業の内容	補助対象経費 (円)	補助金額 (円)
高等学校	AED リース、生徒用防災備蓄品	239,395	119,000

○私立高等学校生徒支援体制整備事業補助金<県補助>

学校別	事業の内容	補助対象経費 (円)	補助金額 (円)
高等学校	人件費	926,000	880,000

○私立学校原油価格高騰対策事業補助金<県補助>

学校別	事業の内容	補助対象経費 (円)	補助金額 (円)
高等学校	燃料費補助	1,590,000	1,590,000
中学校	燃料費補助	555,000	555,000

○理科教育設備整備費等補助金 (令和6年度)

学校別	事業の内容	補助対象経費 (円)	補助金額 (円)
高等学校	理科教育を実施するための設備整備	83,600	50,500
中学校	理科教育を実施するための設備整備	119,900	50,500

○研究助成（令和6年度）

学校別	研究代表者	研究区分	補助金額（円）
高等学校	鎌田隆史	中学校理科教育振興助成（公益財団法人 武田科学振興財団）	300,000
高等学校	鎌田隆史	第9回 COOP トリプルカード みやぎスマイル基金	300,000

○科学研究費助成事業<文部科学省・日本学術振興会補助> (令和6年度)

学校別	研究代表者	研究区分	補助金額 (円) (直接経費)	補助金額 (円) (間接経費)
大 学	市野澤 潤平	基盤研究 (B) 新規	1,175,000	352,500
	遊佐 典昭	挑戦的研究 (萌芽) 継続	1,300,000	390,000
	戸野塚 厚子	基盤研究(C) 継続	800,000	240,000
	櫻井 美幸	基盤研究(C) 継続	400,000	120,000
	鈴木 和弘	基盤研究(C) 継続	480,000	144,000
	及川 規	基盤研究(C) 継続	500,000	150,000
	鈴木 雅之	基盤研究(C) 継続	800,000	240,000
	伊藤 哲章	基盤研究(C) 継続	500,000	150,000
	長谷部 弘	基盤研究(C) 継続	400,000	120,000
	緑川 早苗	基盤研究(C) 継続	1,020,000	306,000
	高橋 陽一	基盤研究(C) 継続	800,000	240,000
	板橋 夏樹	基盤研究(C) 継続	200,000	60,000
	佐藤 陽	基盤研究(C) 継続	1,100,000	330,000
	石田 依子	基盤研究(C) 継続	1,000,000	300,000
	堀田 智子	若手研究 継続	400,000	120,000
	菊地 恵太	若手研究 継続	300,000	90,000
	成田 凌 ^{※1}	研究活動スタート支援 継続	1,100,000	330,000
	大谷 尚之	基盤研究(C) 新規	600,000	180,000
	木口 寛久	基盤研究(C) 新規	400,000	120,000
	大久保 尚子	基盤研究(C) 新規	500,000	150,000
成田 凌 ^{※1}	若手研究 新規	900,000	270,000	
林 瑞紀	研究活動スタート支援 新規	1,100,000	330,000	
		合計	15,775,000	4,732,500

※1 機関異動による移管分を含む

4. 入学志願者、合格者、入学者数

(2024年5月1日 学校基本調査)

			入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	
大 学 院	修 士 課 程	人文科学研究科	英語・英米文学専攻	4	1	1	1
			日本語・日本文学専攻	4	0	0	0
			人間文化学専攻	4	0	0	0
			生活文化デザイン学専攻	4	1	1	1
	健康栄養学研究科	健康栄養学専攻	4	1	1	1	
大学院合計			20	3	3	3	

			入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
大 学	現代ビジネス学部	現代ビジネス学科	95	238	235	84
	教育学部	教育学科幼児教育専攻	90	157	157	75
		教育学科児童教育専攻	50	190	190	41
		教育学科健康教育専攻	30	168	69	50
	生活科学部	食品栄養学科	100	253	150	112
		生活文化デザイン学科	60	118	118	42
	学芸学部	日本文学科	100	206	199	79
		英文学科	70	157	157	50
		人間文化学科	70	206	206	63
		心理行動科学科	60	233	167	95
		音楽科	25	20	20	16
	大学合計			750	1,946	1,668
3年次編入学			—	15	14	12

		入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
高等学校		260	271	254	103
中学校		160	37	37	32

※「5. 学部・学科等の入学定員、学生・生徒・園児数」(4ページ)の1年生の数は在籍者数(休学者・留年者・留学者・再入学者等を含む数)となっており、本データの入学者数と同数ではない。

5. 寮生数

(2024年5月1日現在)

さくら寮	大学 156名
------	---------

6. 2024 年度就職内定状況

(2025 年 5 月 1 日現在)

学 部	学 科	卒業 学生数 (A)	求職者数 (B)	就職 内定者数 (C)	内定率 (C) / (B)
現代ビジネス学部	現代ビジネス学科	92	84	83	98.8%
教育学部	教育学科 幼児教育専攻	85	83	82	98.8%
	教育学科 児童教育専攻	49	46	46	100%
	教育学科 健康教育専攻	34	30	30	100%
生活科学部	食品栄養学科	100	98	98	100%
	生活文化デザイン学科	52	48	48	100%
学芸学部	日本文学科	87	76	76	100%
	英文学科	51	47	46	97.9%
	人間文化学科	48	38	38	100%
	心理行動科学科	70	59	59	100%
	音楽科	16	13	13	100%
	合計	684	622	619	99.5%